

0600

第一八〇番

(裁決)行決 覽回後		帶 進		決行指定		局長		決裁指定		永久		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		委		件名		第九師團諸部隊現状視察關係件		受領番號	
				官 次		委		政務次官				陸軍省 第三三三三號	
長 課		長 課		局長務主		官副級高		官與參				起元廳(課名)	
				長課務主		副 主		書記官				陸軍省 第三三三三號	
				員課務主		官 務						銃砲課	
				房官臣大		課局務主		了結領受		出提領受		號番	
				昭 和		昭 和		昭 和		昭 和		陸軍省 第三三三三號	
				年 九 月 九 日		年 九 月 八 日		年 月 日		年 月 日		陸軍省 第三三三三號	

政務官 書記官 回付(決行前) 甲兵 (決行後)

審察 筆記者

陸軍

陸 普 副官ヨリ 技術本部長總務部へ通牒  
 別紙要領ニ依リ第九師團諸部隊ノ歸  
 還兵器ノ現状ヲ視察シ其ノ状況ヲ視察  
 後二週間以内ニ報告セラレ度依命通牒  
 又

陸普第四七二二號

昭和四年七月廿九日

陸 普 副官ヨリ第九師團參謀長へ通牒  
 前題ノ件ニ關シ別紙ノ通陸軍技術本  
 部別紙ニ通牒セシニ付之カ實施ニ對シ便  
 宜ヲ與ヘラレ度依命通牒ス

陸普第四七二二號

昭和四年七月廿九日



第九師團諸部隊兵器現状視察計畫

一 視察ノ目的

第九師團諸部隊ノ歸還兵器ノ現状ヲ視察シ應急復旧ニ對スル資料ヲ得ルト昔ニ今次事業ノ兵器ニ及ホセル影響ト実績トヲ探究檢討シテ制式、製造採用檢査及取扱保存ノ改善殊ニ一層之カ戰時化ニ要スル資料ヲ蒐集シ且取扱保存ニ關シ所要ノ指導ヲ行ヒ以テ兵器整備ノ適正ト取扱保存ノ向上トヲ期スルヲ目的トス

二 視察期日、部隊及編成

別表ノ如シ

三 視察兵器

大砲、測器、眼鏡類トシテ前一部ノ擲彈筒又揮

薬粒ニ特ニ部隊ノ希望スル兵器

四 実施要領

1. 歸還兵器ノ動員用ニ充當シ得ヘキ程度ノ資  
料ヲ蒐集スルト共ニ動員兵器ノ程度低下  
必要トスル處置ニ關シ意見ヲ示フ  
附止

2. 今次事変ノ兵器ニ及ホセル影響ト実績ニ關  
スル探究検討及兵器取扱保存ニ關スル指導  
ハ兵器ノ現状及各部隊ノ意見ニ基キ実施ス  
此レカ爲兵器ニ關スル意見ハ努メテ蒐集提出  
スル如ク希望ス

3. 各部隊ニ於ケル視察ハ概テ左ノ順序ニヨリ実施ス

1. 高級視察官挨拶

只提出意見ニ対スル説明質疑應答

ハ兵器視察



又費用

ニ視察ニ基テ指導及所見開陳

井部既當豫算シ以テ支辨スヘシ

技部

陸  
軍

9600

9600

諸  
十)

第九師團  
各異白部  
打今令也

は美施  
日時及部  
'の' 限  
2

銃砲

課  
駐

日		次		日		次	
月	曜	日	曜	日	曜	日	曜
10	木	10	金	11	土	12	日
11	水	12	火	13	木	14	金
15	土	16	日	17	月	18	火
19	水	20	木	21	金	22	土
23	日	24	月	25	火	26	水
27	木	28	金	29	土	30	日
31	月						

午前	視察部隊	編成	摘要
午後	視察部隊		
長村 大尉 大西 中佐 藤原 少佐 藤原 少佐		午前奥地へ入ル 行合ハセヲ行フ	全決一富士間 旅行及打合ハセ

第九師団精部隊兵器現狀視察計畫表

陸軍

備考

一  ハ旅行又打合ハセヲ示ス

ニ 本視察部隊以外ヨリノ意見等ハ兵器部視察ノ際説  
明應答ヲ行フ

8600

別紙添付

式

三三三三

陸技本甲第四七三號

第九師團諸部隊兵器現狀視察實施計畫ニ關スル件報告

昭和十四年八月一日

陸軍技術本部長 多田 禮

陸軍大臣 板 垣 征四郎 殿

七月二十九日陸普第四七三二號ヲ以テ達セラレタル首題兵器現狀視察ハ別冊計畫ニ依リ當部大村大佐ヲシテ實施セシムヘキニ付報告ス



## 第九師團諸部隊兵器現狀視察計畫

### 第一 視察ノ目的

七月二十九日陸普第四七二二號通牒ニ基キ第九師團諸部隊ノ内地歸還後復舊整理前ニ於ケル兵器ノ現狀ヲ視察シテ應急復舊ニ對スル資料ヲ得ルト共ニ今次事變ノ兵器ニ及セル影響ト實績トヲ探究研討シテ制式、製造採用檢査及取扱保存ノ關係事項等ノ改善殊ニ一層之カ戰時化ニ要スル資料ヲ蒐集シ且取扱保存ニ關シ所要ノ指導ヲ行ヒ以テ兵器整備ノ適正ト之カ取扱保存ノ向上トヲ期スルヲ目的トス

### 第二 主要視察事項

概ネ左ノ各項ニ付實施シ又ハ意見ヲ交換シ視察目的ノ達成ニ努ム

一 視察兵器ハ各種火砲（屬品、豫備品共以下同シ）、測器眼鏡類ヲ重點トシ尙擲彈筒及彈藥ノ一部ニ就キ實視ス

銃器類、革具、馬具、車輛類、各種器材等ハ特ニ部隊ノ希望アルモ

## ノノ外視察セス

- 一 兵器ノ應急復舊ニ即スル處置ニ必要ノ件ヲ指示ス
- 二 實戰ノ經驗ニ徴シ兵器制式ノ改正ノ要否ヲ調査シ之カ改修正ニ關スル資料ヲ蒐集ス
- 三 兵器ノ製造、修理及採用検査ノ適否ヲ研討シ之カ改善ニ關スル資料ヲ蒐集ス
- 四 兵器ノ現状ニ基キ取扱保存ノ向上進歩ヲ促ス爲所要ノ指導ヲ行フ
- 五 兵器取扱保存ニ關スル諸規定ノ改善特ニ一層之カ戰時化スルノ資料ヲ蒐集ス
- 六 兵器取扱保存指導ニ必要トスル資料ヲ蒐集シ且將來之カ實施ヲ一層適切有效ナラシムル方策ノ研究ニ資ス
- 七 教育資材ノ整備ヲシテ部隊ノ情況ニ即應セシムル爲ノ調査ヲ行フ
- 八 代用品又ハ規格變更品ノ適否及命數等ヲ判斷シ今後ノ對策ニ資シ又之カ取扱保存ニ關シ特ニ必要トスル處置ノ要否ヲ調査シ且其ノ方策立案

ニ必要ナル資料ヲ蒐集ス

第三 實施 期 日

附表第一ノ如シ

第四 編成及視察擔任區分

附表第二ノ如シ

第五 實 施

一 實施ノ要領

概ネ左ノ要領ニ依リ實施ス

1. 應急復舊ニ關シテハ主トシテ動員用ニ充當シ得ヘキ程度ノ資料ヲ蒐

集スルト共ニ動員兵器ノ程度低下防止ノ爲必要トスル處置ニ付意見

ヲ述フ

2. 今次事變ノ兵器ニ及セル影響ト實績トニ關スル探究研討ハ主トシテ

兵器ノ現狀及各部隊ノ意見ニ基キ實施ス



3. 兵器取扱保存ニ關スル指導ハ兵器ノ現状及各部隊ノ意見等ニ基キ所要ノ指導ヲ行ヒ又ハ意見ヲ述フ

4. 教育資材ノ整備ニ關シテハ主トシテ各部隊ノ意見ヲ徵集ス

#### ニ各部隊ノ準備

視察各部隊ハ左ノ各項ニ付豫メ準備シ置クモノトス

1. 前號要領ニ基キ兵器ニ關スル各種ノ意見ヲ事ノ大小ヲ問ハス努メテ蒐集提出ス

但シ視察セサル部隊ニ於テモ兵器ニ關スル意見ハ成ルヘク多數提出スルコト

2. 配列スヘキ兵器ハ前述第二ニ述ヘタル火炮、測器眼鏡類、擲彈筒ノ

ミトシ視察ニ便ナル如ク程度區分ニ依リ配列ヲ希望ス

彈藥ハ彈藥庫内ニ於テ視察ス

但シ代用品若クハ規格變更品ヲ使用セルモノハ右以外ノ兵器ニ於テ

モ代表的ニ數個宛配布シ置クモノトス

尙所要ニ應シ視察官ニ於テ別ニ視察スヘキ兵器ニ關シ要求スルコト

アルヘシ

3. 左ノ書類ヲ準備シ八月<sup>七</sup>日迄ニ技術本部ニ到着スル如ク提出スルモ

ノトス

但シイノモノハ前日打合セノ際一部提出其ノ他ハ各一〇部トス  
 イ、復舊ニ關スル諸調書（視察終了後直チニ返却ス）

ロ、兵器現況書（視察兵器ニ關シテハ成ルヘク詳細ニ其ノ他ハ概要）  
 ハ、出動間ニ於ケル兵器ノ主要ナル故障損傷、亡失ニ關スル調査書及之

ニ對スル意見

ニ、實戰ノ經驗ニ基ク兵器ノ制式、製造、採用検査ニ關スル意見  
 ホ、實戰ノ經驗ニ基ク兵器ノ取扱保存ニ關スル改善特ニ戰時化ニ關スル  
 意見

ヘ、代用品又ハ規格變更品ノ適否、命數、保存上等ノ見地ヨリスル使用  
 上ノ意見

ト、左ノ兵器ニ關スル諸規定ノ改善特ニ戰時化ニ關スル意見

(I) 兵器業務規則

(II) 兵器取扱法又ハ説明書

(Ⅲ) 彈藥其ノ他ノ取扱細則

(Ⅳ) 兵器履歴規則

(Ⅴ) 兵器保存要領

(Ⅵ) 廢兵器檢定規則

(Ⅶ) 其ノ他

チ、兵器ニ關スル教育資材整備ニ對スル意見又ハ希望

リ、其ノ他兵器ニ關スル意見又ハ希望

三、進捗豫定

附表第三ノ要領ニ依リ進捗ス

但シ時間ノ配當等細部ニ關シテハ實施前日打合せノ上決定ス

附表第一

兵器現状視察期日一覽表		月 日 曜		視 察 部 隊		摘 要
		午 前	午 後	午 前	午 後	
八月十日	木					
八月十一日	金					午前金澤著、旅館ニテ金澤部隊同時打合せヲ行フ
八月十二日	土			山砲兵第九聯隊		
八月十三日	日			兵器部 工兵第九聯隊		
八月十四日	月			歩兵第七聯隊		
八月十五日	火				歩兵第三十五聯隊	午前富山市旅館ニテ打合せヲ行フ
八月十六日	水			歩兵第三十五聯隊		
八月十七日	木					

備考

一、表中ハ旅行及打合せヲ示ス

二、視察時間ハ概ネ八時三〇分ヨリ十七時ト豫定ス

三、本表外ノ部隊ヨリ提出ノ意見等ニ對スル質疑説明應答等ハ兵器部視察ノ際行フ

四、本豫定ハ都合ニヨリ多少變更スルコトアルヘシ

附表第二

兵器現狀視察官編成及擔任區分表	
視察官	擔任業務摘要
首座 砲兵大佐 大村龜太郎	一、全般ノ計畫及整理 二、兵器採用検査ニ關スル事項 三、兵器取扱保存指導等教育資材ニ關スル全般事項
砲兵中佐 大島卓	各隊ノ測器、眼鏡類ニ關スル事項全部
砲兵少佐 後藤光孝	一、各隊ノ彈藥ニ關スル事項 二、各隊ノ擲彈筒ニ關スル事項 三、兵器業務規則、保存要領、彈藥取扱規則、兵器履歴規則、廢兵器檢定規則ニ關スル事項
砲兵少佐 則松孝	各隊ノ火砲ニ關スル事項全部

附表第三

兵器現状視察進捗豫定表

順序	區分	摘要
一	視察官首座ノ挨拶	開始ニ先タチ視察官首座ヨリ視察目的其ノ他ニ關シ説明シ挨拶ト爲ス
二	各部隊ニ於ケル兵器一般ノ現況ト實戰ノ經驗ニ基ク一般所見ニ關スル説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、説明ハ隊長(又ハ兵器委員首座)之ヲ行フ</li> <li>二、本説明ニハ特ニ左ノ事項ヲ含マシムルモノトス</li> <li>1. 應急復舊一般ノ現況ト之ニ必要トスル主ナル處置</li> <li>2. 實戰ノ經驗ニ基ク兵器ニ對スル信賴ノ程度</li> <li>3. 兵器故障等ノ爲必勝ノ信念ニ及シタル影響</li> <li>4. 戰場ニ於テ兵器尊重心ヲ旺盛ナラシムル爲採リタル手段等</li> <li>5. 戰場ニ於ケル兵器手入保存ノ實相等</li> </ol>
三	各部隊ヨリ提出意見ニ對スル説明及之ニ對スル質疑應答	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、説明ハ關係將校之ヲ行フ</li> <li>二、本説明ハ前述第五ノ二ニ記セル各提出書類ニ付行フ外其ノ他ノ意見ヲモ成ルヘク多數開陳スルモノトス</li> <li>三、右ニヨリ提出書類ニナキ意見ハ要スレハ要點ヲ印刷シ提出セラレ度</li> <li>四、關係將校出席ノコト</li> </ol>
四	兵器ノ現状實視	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、附表第二ノ區分ニ基キ各視察官ニ於テ實施ス</li> <li>二、關係將校下士官ハ立會スルモノトス</li> <li>三、實施ノ細部ニ就テハ實施前打合せヲ行フ</li> </ol>
五	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 實視結果ニ基ク指示又ハ指導</li> <li>2. 意見ノ交換</li> <li>3. 質疑應答</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、應急復舊ニ關シ必要ナル件ヲ指示ス</li> <li>二、兵器取扱保存ニ關スル必要ナル指導ヲ行フ</li> <li>三、兵器ニ關スル意見ノ交換又ハ質疑應答ヲ實施ス</li> <li>四、成ルヘク多數ノ將校ノ出席ヲ希望ス</li> </ol>
六	所見開陳	
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>一、時間ノ配當其ノ他細部ニ關シテハ實施前打合せヲ行ヒ決定ス</li> <li>二、兵器部ニ在リテハ本豫定ニ準シ實施ス</li> </ol>	

8070

現品添付

陸技本秘甲第一二三號

第九師團諸部隊兵器現狀視察實施報告

昭和十四年九月二日

陸軍技術本部長 多田

陸軍大臣 畑 俊六 殿

昭和十四年七月二十九日陸普第四七二二號通牒ニ基キ實施セル首題  
兵器現狀視察ノ成績別冊ノ通報告ス



陸軍



東京 助川 納

2223 810

GOTO



昭和十四年八月

第九師團兵器現狀視察報告

陸軍技術本部



第九師団諸部隊兵器現状視察報告

目次

第一	視察ノ目的	一
第二	視察結果ノ概要	二
	一 應急復旧ノ実施及兵器ノ現況	二
	二 即時動員下令ノ場合ト整備ニ就テ	四
	三 應急復旧ノ程度区分ニ就テ	四
	四 應急復旧實施ニ関シ指示シタル事項	五
第三	視察實施ノ概要	八
第四	視察ノ結果ニ基キ処置ヲ要スル事項	一〇
	一 歸還兵器ノ戦地ニ於ケル使用状況ノ觀察	一〇
	二 視察兵器ノ制式改正ニ関シ速カニ研討スヘキ事項	一五
	三 兵器ノ製造、修理、採用検査實施上参考トスヘキ事項	一九
	四 兵器取扱保存上留意スヘキ事項	一九

五	保存取扱ノ諸規定ニ関スル事項	二三
六	代用品使用ノ状況並ニ之ニ対スル意見	二五
第五	所見	二六
第六	部隊ヨリ提出セラレタル意見並ニ希望及之ニ対スル技術本部ノ意見並ニ処置	二七

## 第九師団諸部隊兵器現狀視察報告

昭和十四年七月二十九日陸普第百四七二二號通牒ニ基キ八月十日ヨリ同十七日ニ亘リ第九師団兵器應急復旧現狀視察ヲ命セラル以下其ノ現況ニ付報告ス

## 第一 視察ノ目的

第九師団諸部隊ノ内地歸還後復旧整理前ニ於ケル兵器ノ現狀ヲ視察シ應急復旧ニ対スル資料ヲ得ルト共ニ今次事變ノ兵器ニ及ホセル影響ト実績トヲ探究研討シテ制式、製造、採用検査及取扱保存ノ關係事項等ノ改善殊ニ一層之カ戰時化ニ要スル資料ヲ蒐集シ且取扱保存ニ關シ所要ノ指導ヲ行ヒ以テ兵器整備ノ適正ト取扱保存ノ向上トヲ期スルヲ目的トス

第二 視察結果ノ概要

一 應急復旧ノ実施及兵器ノ現況

師団ハ本年六月原駐地ニ歸還ト共ニ第九師団兵器復旧整理要領ニ基キ各部隊自ラ判定検査ヲ行ヒ續イテ兵器部長ノ検査検査アリ

目下細部ノ復旧整理中ニシテ概ネ本年十月中ニハ應急復旧ヲ又十二月中ニハ一般復旧ヲ終了スル予定ヲ以テ一意専心努力ヲ傾注シアリ

今回視察セシ火砲、光学兵器及重擲彈筒等ノ保全ノ状態ハ屢次ノ現地修理、交換支給ヲ受ケタリトハ言ヘ師団カ長期且諸糧ノ地形状況ニ遭遇シ激戰遂行ノ割合ニ素質トシテハ良好ニシテ此等主要兵器ニ關スル限り復旧ハ意外容易ニ了了シ得ルモノト認ム

左ニ各兵器ニ就テ現況ヲ述ヘントス

(一) 火砲

イ 九四式山砲

約三分ノ二ハ戦地ニ於テ現地修理ヲ経テ其ノ程度良好ナリ

約三分ノ一ハ修理未済ノ為砲架各部ノ動搖大ニシテ加修スルニ非サレハ長期使用ニ適セス

全般ニ現地修理ニヨリテ戦用ニ供シ得ヘク且機能ヲ向上シ得ヘシ

ロ 九二式歩兵砲

程度良好ニシテ直チニ戦用ニ供シ得ヘキモ驮載ニ対スル改修未了(属品共)ノモノ約三分ノ一アリ速カニ処置ヲ要ス

尚長等ハ現地修理ニテ処置シ得ルモノト認ム

## ハ 四一式山砲

程度概シテ良好ニシテ戰用ニ供シ得ヘシト認ムルモ  
 駄馬師団用トシテハ(歩兵用火砲ハ屬品類ノ駄載ニ附  
 シ至急必置スルヲ要スト認ム

## ニ 十一年式平射歩兵砲

若干ノ現地修理ニテ十分戰用ニ耐工得ルモノト認ム  
 ↑以上諸火砲ヲ綜合シテ師団全般ノ修理所要百數概不  
 一ヶ月ト推定ス

## (ニ) 光学兵器

火砲照準眼鏡ハ程度良好ナルモ機關銃照準具、動搖  
 スルモノアリ又測遠機ノ工廠修理ヲ要スルモノノ外砲  
 隊鏡、觀測鏡、双眼鏡、測量器材、眼鏡類ハ一般ニ内部  
 ノ小修理及曇等ニ対スル分解手入ヲ要スル程度ノモノ  
 多キヲ以テ現地修理可能ニシテ九三式双眼鏡ハ附近市

井工場ニテモ修理シ得ヘシト認ム  
 下以上ヲ綜合シテ師団全般ノ修理所要日數概ネ一ヶ月ト  
 推定ス

(三) 重擲彈筒

屬品、豫備品ヲ充足セハ概ネ直千ニ戰用ニ供シ得ヘシ  
 ト雖モ各部動搖スルモノ多キヲ以テ現地修理ニ依リ其  
 ノ機能ヲ完全ニ修復シ置ケテ要スト認ム

(四) 彈藥

火砲彈藥ノ整理十分ナラス藥種、彈種、程度ノ区分不  
 良信管ノ処置等ヲ一層的確ナラシムルノ要アリト認ム  
 尚今回ノ視察ト時ヲ同フシ造兵廠ヨリ火砲關係(大政工  
 廠)、光学兵器關係(東京工廠)ニ付夫々専門將校ヲ現地ニ  
 派遣シ技術本部ノ視察ト密接ニ連繫シツツ現地修理ノ  
 下見ヲ実施セラレタルハ機宜ニ適シタル処置ト認メラ

レ部隊モ大イニ喜ヒアリ連絡、指導上効果多大ナルモ  
ノアリシモノト思考ス

ニ 即時動員下令ノ場合ト整備ニ就テ

(一) 火砲及光学兵器ハ前述ノ如ク概ネ素質ハ良好ナルモ  
之ニ対シ速カニ修理、改修ノ実施又ハ分解手入等ヲ行  
フニ非サレハ若干ノ戦力低下ハ免レサルヘク殊ニ九四  
式山砲ノ整備ハ急ヲ要スルモノアリ  
為シ得ル限り速カニ現地修理班ヲ派遣スルヲ必要ト認  
ム

尚属岳、豫備岳ノ不足補填ニ就テハ優先的ニ之カ実施  
ヲ促進スルヲ要ス

(二) 九〇式砲兵観測隊載箱~~井~~通信器材ハ此ノ儘ニ  
テハ甚シク戦カニ缺陷ヲ來スヘキヲ以テ速カニ修正九  
〇式ニ改装セシムルヲ要スルモノト認ム



(三)

馬具、革麻製品ノ復旧更新ハ今回ノ視察外ニ属スル  
モ一部ノ隊ニ付之ヲ夏ルニ其ノ程度意想外ニ不良ニシ  
テ師団復旧ノ最大隘路ハ茲ニ存スルモノノ如シ

即チ修理セントスルモ材料ニ缺乏シ作業カハ余裕アル  
モ如何トモ為シ得サル状態ナル旨ヲ訴フル現状ニアリ  
一刻モ速カニ兵器廠ヨリ師団要求ノ修理用材料ヲ調弁  
送達シ師団復旧業務ノ実施ヲ圓滑ナラシメラレシコト  
ヲ希望ス

(四)

歩兵隊火砲ノ裝備ニ關シ九ニ式歩兵砲及九四式三十七  
口径砲ヲ以テスヘキカ又ハ之ニ代リテ十一年式平射、曲  
射砲ヲ以テスヘキカニ付明確ニ指示セラルノ要アリ

三

應急復旧程度正分ニ就テ

(一)

本業務ニ關シテハ六月十日留守司令部調製係九師団

同留守部隊(病院ヲ除ク)復員要領中兵器復旧整理要領ヲ  
 参照シニ日間ニ互リ兵器部ニ各隊主務者ヲ召集シテ之  
 ニ現物ヲ以テ程度区分ヲ指示シテ應急復旧ノ要領ヲ指  
 導セラレタリ

然レトモ現物見本ヲ有セス他ニ具體的文書ヲ有セザル  
 ヲ以テ稍適確ヲ缺クモノアリ又復旧ノ根本精神ヲ理解  
 セス單ニ比較ノ觀念ニ授ハレ程度区分ニ墮シタルモノ  
 ナキニシモアラス

測器類等ニ於テ外觀的判定ニ依ル嫌ヒアリ爲ニ假令ハ  
 全品申ト判定シアルモノノ内ニ損品申ヲ含有スルコト  
 多ク又一般ニ区分標識不明ナルモノ少カラズ

是等ハ一々現物ニ付指示シ注意ヲ喚起セリ又彈藥ニ於  
 テ其ノ程度ノ判別ニ適切ヲ缺クモノアルノ外概ネ整理  
 セラレアリト認ム

(二) 本師団及第十師団復旧要領ノ狀況ヲ觀察シタルト  
 コロヲ彼此对照シテ考察スルニ全軍ノ據ヲ以テ基準ト  
 スヘキ復旧区分ノ具體的着眼事項ハ之ヲ陸軍省ヨリ指  
 示シ之ニ基キテ各師団ノ現況ニ應スルカ如キ應急復旧  
 計画ヲ樹立セシムルヲ可トス

四 應急復旧実施ニ關シ指示シタル事項

(一) 應急復旧区分ニ就テハ適當ナラサルモノアリ之ニ対  
 シテ指示セル事項次ノ如シ

イ 大砲ノ区分ハ凡テ申トスルヲ可トス

當師団トシテ九ニ式歩兵砲(舊品共)ハ駄載式ニ改修シ  
 且車輪ノ補強作業ヲ実施シ置クヲ要ス

九四式小砲々身ノ地液甚シキ一箇ハ廢品トスルヲ適  
 當トス

復坐桿ノ腐蝕甚シキモノハ新調修理スルヲ可トス

觀線検査ヲ実施シ置ケテ要ス

属品、豫備品等ノ缺點ハ速カニ補填シ且其ノ保存手  
入ヲ適切ナラシムルヲ要ス

ロ 光学兵器類ノ区分ハ甲トスルカ或ハ廢品トスルヲ  
可トス

全品甲ト判定セルモノノ中ニ相當數光学部品ノ分解  
手入ヲ要スルモノアリ損甲トシテ現地修理ヲ受ケル  
ヲ要ス

尚同修理後ハ新品ニ比シ曩等損傷ノ發生速カナルモ  
ノアルニ鑑ミ点検ノ回数ヲ増加シ又ハ時々快晴ナル  
日ヲ選ヒ之ヲ使用シ手入ノ上格納スル等其ノ程度保  
持ノ為特ニ取扱保存ニ留意ヲ要ス

又旧型品ヲ乙トセルモノアルモ現時局下ニ於テハ之  
ヲ甲トシ取扱ヲ至當トス

一級ニ及學部品ノ破損ハ修理可能ト認メテ可ナルモ  
 全属部品ニ在リテハ其ノ著シキ破損ハ廢品トスルヲ  
 至当トス

ハ 擲彈筒区分ハ全テ甲トスルヲ可トス但シ豫備品ハ  
 速カニ所要數ノ調査ヲ遂ケ之ヲ補填シ且其ノ保存法  
 ヲ適切ニシ發錯ヲ誘起セシメナル如クスルヲ要ス

ニ 彈藥ハ其ノ区分ヲ一層明確ニスルヲ要ス  
 損品申中ニハ相當數ノ信管廢品又ハ信管危險品ヲ含  
 ミアルヲ以テ其ノ整理ハ除信管ノ彈藥筒トスルヲ適  
 當トスヘシ

又火藥ノ製作年次彈藥ノ調製年月等彼此混淆シテリ  
 テ整理ヲ紛糾セシムル惧アルニ付ナルヘケ速カニ区  
 分シ置クヲ要ス

臨時補給ノ九ニ式歩兵砲代用彈利用榴彈ハ区分ヲ明

カニシ置クヲ要ス  
信務彈、發煙彈等ノ特種彈藥ハ一般彈藥ト分離シ軍  
独ニ格納スルヲ要ス  
消函ノ素箱ヲ彈藥素箱代用ニ使用シアルハ適當ナラ  
ス速カニ改ムルヲ可トス  
小銃実包不良品ノ手入ヲ兵カラ以テ実施シアルハ之  
ヲ止メ程度ノ甚シキモノハ速カニ返納スルヲ可トス

一 視察ノ期日、部隊及視察官ノ編成等次表ノ如シ

第三 視察実施ノ概要

考	備	次 日		日 曜	視 察 部 隊	視 察 官 編 成	摘 要
		月 日	日 曜				
本視察部隊以外ヨリノ意見等ハ兵器部視察ノ際説明應答ヲ行フ	ハ旅行及打合ヲ示ス	8	17	木			
		7	16	水	歩兵第35聯隊		
		6	15	火	歩兵第35聯隊		
		5	14	月	歩兵第7聯隊		
		4	13	日	工兵第9聯隊 兵器部	砲兵少佐 後藤光寿 砲兵少佐 則松 專	
		3	12	土	山砲兵第9聯隊	砲兵中佐 大島 卓	
		2	11	金		首座 砲兵大佐 大村魯太郎	午前金沢部隊ノ実施ニ 關スル打合ヲ行フ
		1	10	木			

二 視察員ノ業務分担次表ノ如シ

視察官	擔任業務
首座 大佐 大村 龜太郎	一 全般ノ計畫及整理 二 兵器全般ノ視察及統制
砲兵中佐 大島 卓	各隊ノ測器・眼鏡類ニ関スル事項全部
砲兵少佐 後藤 滋孝	一 各隊ノ彈藥ニ関スル事項 二 各隊ノ擲彈筒ニ関スル事項 三 兵器ニ関スル諸規則ニ関スル事項
砲兵少佐 則松 專	各隊ノ火砲ニ関スル事項全部



三 視察ノ景況次ノ如シ

順序 区 分	摘 要
<p>一</p> <p>視察官首座ノ挨拶 (概テ三十分)</p> <p>各部隊ニ於ケル兵器一般ノ現況ト実戦ノ経験ニ基ク一般所見ニ関スル説明</p> <p>概テ一時間乃至二時間</p>	<p>開始ニ先テ視察官首座ヨリ視察目的其ノ他ニ関シ説明シ挨拶ヲ為セリ</p> <p>一般ノ説明ハ兵器委員首座ヨリ行ヒ其ノ後歴戦將校数名各兵器ニ対スル実戦ノ経験並ニ之ニ対スル意見希望等ニ関シ各々其ノ体験ヲ陳述セリ其ノ要綱次ノ如シ</p> <p>1. 應急復旧一般ノ現況ト之ニ必要トスル主ナル処置</p> <p>2. 実戦ノ経験ニ基ク兵器ニ対スル信頼ノ程度</p> <p>3. 兵器故障等ノ為必勝ノ信念ニ及ホシタル影響</p> <p>4. 戦場ニ於テ兵器尊重心ヲ旺盛ナラシムル為採リタル手段等</p> <p>5. 戦場ニ於ケル兵器ノ取扱手入保存ノ実相等</p> <p>尚本説明向所要ノ質疑應答ヲ為シ認識ヲ確実ナラシムルト共ニ指導ヲ行ヘリ</p>
<p>二</p>	

順序	区 分	摘 要
三	兵器ノ現状実視 山砲隊概ネ一日 其ノ他概ネ半日	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、各視察官ノ分担毎ニ概ネ砲廠、雪中教練場ニ於テ実施セリ</li> <li>二、関係將校下士官立會セリ</li> <li>三、此ノ際造兵廠関係者モ同時ニ視察セリ</li> </ul>
四	各部隊ヨリ撰 出意見ニ対スル 質疑應答 (概ネ一時間乃至二時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、各部隊ヨリ豫メ徵シアル意見ニ対シ各担任者ヨリ回答 ヲ為シ必要アルトモハ更ニ部隊ノ説明ヲ求メ又敷衍シテ シテ指導的ニ應答セリ</li> <li>二、関係將校列席セリ</li> </ul>
五	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、実視結果ニ基 ク指示又ハ指導</li> <li>二、意見ノ交換</li> <li>三、質疑應答 (概ネ一時間)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、應急復旧ニ関スル兵器現品ノ配置法ニ付必要ナル指示ヲ為セリ</li> <li>二、兵器取扱保存ニ関シ特ニ今後差當リ必要ナル指導ヲ行ヘリ</li> <li>三、其ノ他概ニ関係兵器ニ付意見ノ交換又ハ質疑應答ヲ実施セリ</li> <li>四、関係將校列席セリ</li> </ul>
六	所見簡陳 (概ネ三十分)	兵器部ニ対シテハ全視察終了後更ニ必要ナル事項ヲ一括シテ 部員ニ指示セリ
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、午前八時概ネ八時三十分、午後八時三十分ヨリ開始シ概ネ十七時ニ終了セリ</li> <li>二、兵器部ハ本表「順序」ノ二、三ヲ除キ彈薬ノ現品ニ付視察セリ</li> </ul>	

#### 第四 視察結果ニ基キ処置ヲ要スル事項

一 歸還兵器ノ戦地ニ於ケル使用状況ノ觀察

##### (一) 亡失毀損ノ状況

本師団ノ戦歴ハ之ヲ大別シテ五トナスヲ得ヘシ 其ノ  
 第一ハ上海、南京附近ノ戦鬪ニシテ豪雨ト泥濘ト塩分ヲ  
 有スルグリークトニ悩マサレツツ連日連夜ノ匍匐激戦  
 ヲ繰リ返シテ死傷繰出シ而モ手入材料ノ補給意ノ如  
 クナラサル状況ニアリ 其ノ第二ハ徐州會戦ニシテ平坦  
 廣濶ナル原野ヲ遠ク敵ヲ追ツテ黃塵万丈ノ間ヲ馳駆シ  
 其ノ第三ハ武漢攻畧ヨリ岳州ニ至ル山岳重疊タル間ニ  
 於ケル戦鬪ニシテ裝備ノ変更ヲ行ヒ甚タシキハ臂力運搬  
 ヲ以テ駄馬ノ不足ヲ補ヒ又地形錯雜ニシテ常ニ補給困  
 難ノ状況ニアリシコト是ナリ

從ツテ兵器ノ亡失、毀損モ亦其ノ兵力消耗ノ最大ナリシ  
 上海、南京戦ニ於テ最モ大ニシテ其ノ大部分ト称スヘク  
 武漢攻畧戦ニ於ケル馱載並ニ臂力運搬向ノ事故ニ基ク  
 亡失、毀損之ニ次キ徐州作戦ニ於テハ、鉄道線路上行進ニ  
 基ク車輛ノ毀損相当大ナリ。此ノ間上海附近ニ於テ一  
 回野戦砲兵廠移動修理班ニヨル火器ノ修理及歸還前ノ  
 駐留間ニ於テ野戦砲兵廠、小倉工廠ノ移動修理班及師団  
 兵器勤務隊ニヨリ全兵器ニ亘リ現地修理ヲ実施シタル  
 外一、二回附近部隊ヲ利用シタルコトアルモ徐州及武漢  
 作戦間ニ於テハ殆ト修理班ヲ利用スルノ機會ヲ得サ  
 リシカ如シ  
 亡失ノ著シキモノヲ例示セハ次ノ如シ

0130

九三式五十糎銀測鏡	九三式双眼鏡			九三式夜光羅計			八式重擲彈筒			火砲屬品吊鎖、鑰	九二式歩兵砲防楯	兵器名稱
				予備品		屬品		八式重擲彈筒				
				遊子ばね	撃針	スパナ	外被	一	四			
八	一二	三四	七四	二六四	二一二	一〇六	五三	五三	一	一	部隊区分	
甲隊	丙隊	甲隊	丙隊			甲隊	丙隊	乙隊	甲隊	摘要		
主トシテ上海戦ニ依ル			構造ノ脆弱ニ基クモノ如シ			屬品及予備品ハ主トシテ外被ト共ニ亡失セルモノニシテ概テ不定數ノハ割ニ達シ外被ハ戦鬪間置去ラレ易キヲ実情トスルカ如シ			時期及理由詳ナラス 主トシテ上海戦ニ於ケルモノニシテ漢口ニテ補給ヲ受ケアリ			

敵彈ニ依ラサル毀損品ヲ例示セハ次ノ如シ

イ 火砲関係

九四式山砲 駐鋤頭、轆桿挿筒、駐鋤駐板、彈藥箱鑄板

九二式歩兵砲

防楯支桿取附部、彈藥箱鎖紐

毀損ノ狀況ハ戦況上止ムヲ得スト認ムルモノト制式改正未了ニ基クモノ及制式上研究ヲ要スルモノトアリ尚敵彈ニ依ル毀損ハ相当數ニ上リアルモ何レモ交換又ハ修理セラレアリテ其ノ実狀詳ナラス

ロ 擲彈筒

八九式重擲彈筒ノ主ナル損傷ハ筒内面ノ腐蝕ト筒ト柄桿トノ結合部ノ動搖、整度器ノ動搖ニシテ筒外表面ノ錆染部ハ大多數修理ヲ要スル状態ニアリ

尚駐板ハ一、ニ小銃弾痕ヲ有ヌルモノアルモ毀損シタルモノヲ認メス又經驗セスト謂フ

ハ 弾薬ノ不良品、發錯ニ基ク衝帽、薬盤ノ固着及弾体及薬莖外面ノ錆ニシテ尚八九式擲弾筒榴弾ハ蓋ノ上面ニ炸薬滲出セルモノ甚タ多シ

之ヲ要スルニ兵器亡失毀損ノ数並ニ其ノ程度ニ因シテハ各部隊各様ナルモ出動向移動修理班ニヨル現地修理ヲ經タル結果トハ云へ出動長期ニ互レルト激烈ナル戦闘ニ参加シアル戦歴ニ拘ラス比較的少キヲ感セリ

唯毀損ス亡失ニ就テハ夫々其ノ部下ニ対スル精神的指導並ニ各種ノ具体的措置ニ関スルコト大ナリト雖モ制式並ニ裝備方法モ亦關係スルコト甚大ニシテ野戦病院等ニ於ケル兵器ノ回收ヲ一層適切ニ実施スル如

ク部署スルコトカ亡矢兵器ノ減少ニ效果アルコトハ  
 当師團ノ戦跡ニ徴シテ特ニ必要ナル事項ナリト認め  
 タリ

(二)

各幹部以下兵器ノ愛護及信頼ノ度

イ 兵器ノ愛護

兵器ノ愛護ニ関シテハ夫々相当ノ工夫ヲ為シ或ハ手  
 入布ノ不足ノ為ニ自ラノ被服ノ裏ヲ裂キテ之ニ代ヘ  
 タルカ如キ或ハ歩兵第三十五聯隊ニ於テ停弾ヲ注シ  
 タルカニ式歩兵砲ニ対シ海軍専門家ノ意見ヲ徴シ適  
 当ナル補助具ヲ使用シテ万全ヲ期シタルカ如キ实例  
 ニ徴シ其ノ取扱ニ就テ相当視ルヘキモノアリト雖モ  
 一般ニ兵器ノ構造機能ニ対スル根本的理解ニ欠クル  
 為之ヲ活用シ得サリシモノアリ又其ノ取扱手入法ノ  
 根本的理解不足ノ為狐疑シテ脂油ノ使用ヲ躊躇セル



如キ應用材料ノ使用ニ遺減ノ莫アリシコトハ將來ノ指導上注意ヲ要スト認ム

一般ニ火炮、機関銃等個人裝備以外兵器ニ對シテハ保存良好ナルニ反シ個人裝備ニ於テハ損傷、亡失等多ク其ノ愛護ニ一抹ノ疑念ヲ抱カシムルモノアリ又眼鏡、測器及彈藥ニ對スル理解ハ未タ十分ナラス

照準眼鏡類カ比較的程度良好ナルハ砲手ノ兵器ニ對スル愛護心ノ賜ニシテ觀測手等ノ教育ニ於テ一層ノ向上ヲ要スルモノアリト認ム

又兵器主体ニ對スル愛護ノ念ニ比シ予備品、屬品ニ對スルモノニ著シキ逕庭アリテ其ノ取扱、手入、保存モ亦著シク劣レルハ一方ニ於テ予備品等ノ亡失多キ原因ナルト共ニ制式上予備品ノ過剩ヲ示唆スルモノト認ム

⑦ 製緊塞具ノ予備品ノ如キハ多数ヲ有シ而モ硬化  
 シアリ戰場ニ於ケル現地修理ノ際ハ現品ヲ修理班カ  
 携行シ来ルヲ以テ携行予備品ハ使用セス自隊ニテハ  
 緊塞具ノ入レ換ヘヲ実施シ得サル実情ニアルカ如シ  
 兵器ノ愛護ニ対スル兵器部及各隊ノ上級幹部ノ指導  
 ハ概ネ熱心ニシテ殊ニ師団長ノ命ニヨリ南京戦後聯  
 大隊ニ兵器班ヲ編成シ又衛生隊及病院ニ夫々技術下  
 士官ヲ置キ患者兵器ノ回收整理ニ任セシメタル如キハ  
 大ニニ適當ナル処置ト認め然レトモ下級者ニ対シ制  
 式尊重ノ觀念ト実戦ノ体験ニ基ク改善意見ト制式蔑  
 視ノ觀念トノ三者ニ付テ取捨選別ヲ為シ其ノ導向ヲ  
 誤ラシメサルノ用意ニ至ツテハ稍満足ヲ欠クノ莫ナ  
 シトセス本件ハ牽テハ兵器ノ信頼度ニ關係ヲ及ボス  
 モノナルヲ以テ指導上注意ヲ要スルモノト認め

ロ 兵器信頼ノ度

兵器ノ信頼度ニ関シテハ兵器ノ種類ニ依リテ大差アリ重兵器及重擲弾筒ハ最モ信頼度大ニシテ火炮ノ助カサヘアレハ常ニ安堵シ志気大イニ拳リ必勝ノ信念ヲ把持シ得ヘク之ニ及シ十一年式輕機ハ故障頻出ノ為信頼度低ク小銃ニ至リテハ火炮トシテノ信頼度極メテ低ク輕機及小銃ハ到底支那軍ニ敵シ難シトスル念ヲ有スル者召集兵等ニ甚タ多キハ大イニ著目ヲ要ス其信頼度ノ順序ヨリスレハ第一火炮、第二重機、第三重擲、第四輕機、第五小銃、第六拳銃ナリ

二十六年式拳銃ハ敵ヲ前ニシ弾倉不同取トナリ不覺ヲ採ル場合甚タク之カ不用論ヲサヘ唱フルモノアリ

光学兵器類ハ一ハ戦況上一ハ理解ノ程度低キ為カ其ノ

二	ハ	口	イ	記号 隊号 狙撃銃	番 号
9P	9BA	35%	7%		1
		多	多	重機照 準眼鏡	2
	多	多	多	火砲照 準眼鏡	3
	多	中	少	双眼鏡	4
多	多	多	多	砲隊鏡 潜望鏡	5
無	多	少	中	測遠機 測距機	6
少	少			経緯儀 望遠測角機	7
多、ハ利用多キモノ 中、ハ中位ナルモノ 少、ハ少キモノ 無、ハ全ク使用ナ ルモノ					摘 要

本兵器ノ利用程度ヲ調査セル結果次ノ如シ

利用セラレタル程度少ク、望遠測角器ハ全ク使用セ  
 スハ九式双眼鏡ハ其ノ用途ヲ知ラスシテ重キヲ嘆シ  
 彩鏡ノ殆ント全部ハ用途ヲ知ラス紛失セルカ如キ状  
 況ナリ只全般ヲ通シ砲隊鏡、角形双眼鏡殊ニ九三式五  
 十輝觀測鏡ノ如ク潜望式ノモノハ最モ希望セラレ  
 ル所ナリ

彈藥ハ九一式曳火手榴彈ノ曳火秒時ノ長カリシコト  
カ戰場ノ體驗上深ク印象セラレアリテ信賴度ヲ傷ケ  
アリ又目信管ノ取扱ニ関シテハ今尚不安ヲ感シアル  
ヲ以テ被帽及擊針ノ改正ニ関シテハ適當ナル処置ヲ  
講スルノ要アルモノト認ム

之ヲ要スルニ兵器信賴心ハ他家ノ花ハ赤シトノ諺ノ  
類ニ洩レヌ動モスレハ敵軍兵器ヲ羨ミ自己ノ兵器ヲ  
蔑視スル弊ナキニシモアラヌ苦戦シタル部隊ニ於テ  
益々然リトス

歴戦者ノ誤認ニ基ク劣勢感ハ極カ速カニ之ヲ驅逐ス  
ルト共ニ改善ヲ要スヘキ莫ハ速カニ処置シ以テ必勝  
ノ信念ヲ確立セシムルノ要アリト認ム

ニ 視察兵器ノ制式改正ニ関シ速カニ研討スヘキ事項  
兵器制式ノ意見ニ関シテハ既ニ一般ニ論議セラレアルモ

ノト大差ナキモ当師団ノ戦闘経過ノ關係上印象最も強キ  
 上海戦ニ於ケル体験ニ基クモノ首位ヲ占メ次テ山地戦タ  
 ル武漢攻畧戦ノモノニシテ徐州作戰ノモノトヲ对照スル  
 トキハ相互矛盾スルモノナシトセス又眞ニ兵器ヲ理解シ  
 テ使用シタル場合ノミニアラサルヲ以テ直チニ首肯シ難キ  
 莫アルモ裝備法ト相俟テ相当研究改善ヲ要スルモノアリ  
 又予備品ノ種類員数等ニ就テモ速カニ改正ノ要アリ  
 視察兵器ニ就テ主要ナルモノヲ掲クレハ次ノ如シ

(一) 火砲

イ 火砲駐退復坐液ノ種類ハナルヘク單一ニセサレハ  
 戰場補給上困難ニシテ過誤ヲ来ス慎レアリ研究スルヲ  
 要ス

ロ 九四式山砲

(1) 閉鎖機撃發機ハ不發防止及部品ノ強度ノ増大ヲ

## 要ス

- 各部ノ磨耗ノ為瀑管ノ横突キ引鉄塞底ニ亀裂ヲ生スルモノ多キヲ以テナリ
- (2) 駐退機活塞桿外筒ノ小ねぢカ脱落セサル如ク改正スルヲ要ス
- (3) 復坐液ニ不凍性軽質潤滑油ヲ使用スルコトニ關シテハ速カニ部隊ニモ徹底スル如ク手續スルヲ要ス
- (4) 砲架及脚頭ノ輻軸圧螺ノ脱落セサル如ク改正スルヲ要ス
- (5) 車輪ノ動搖大ナルヲ以テ軸筒ノ交換容易ナル如ク改正スルヲ要ス
- (6) 砲架全般ノ遊隙極メテ大ナルヲ以テ之カ増大防止ニ關シ研究スルヲ要ス

- ハ
- (17) 弾薬箱ノ抗力不足ナルヲ以テ補強スルヲ要ス
- (8) 空気ノ補充ノ為輕量唧筒ニ付研究スルヲ要ス
- (9) 馱鞍ノ搖架架匡ハ托架ヲ堅牢ナラシムルヲ要ス
- ハニ式歩兵砲
- (1) 防楯托架ノ抗力ヲ大ナラシムルヲ要ス
- (2) 砲架ノ馱載ニ於ケル重心位置ニ関シ研究ノ余地アリ
- (3) 抽筒子軸ノ抗力ヲ増大スルヲ要ス
- (4) 提提ハ馱載ノ時屈曲スルヲ以テ其ノ抗力ヲ増大スルヲ要ス
- (5) 弾薬箱ノ鎖紐ヲ堅牢ナラシムルヲ要ス
- (6) 弾薬箱屬品箱ヲ脊負ニ便ナル如ク研究スルヲ要ス
- (17) 弾薬筒ニテ收容スルニ適スル弾薬箱ヲ研究スル



ヲ要ス

(8) 戦輪ヲ堅牢ナラシムルヲ要ス

ニ 四一式山砲(歩兵用)

(1) 予備表尺眼鏡ノ携行法ヲ講スルヲ要ス

(2) 属品ノ駄載ニ関シ研究スルヲ要ス

(二) 光学兵器

イ、 光学兵器手入材料ニ関シ一般ニ検討ヲ要スルモノ

ト認ム

ロ、 七矢防止ノ為彩鏡ノ携行法ノ研究ヲ要ス

ハ、 五十種観測鏡ノ焦点鏡ノ移動著シキモノアリ研究

ヲ要ス

ニ 九ニ式測距機囊ノ規正板ヲ兼ネアルハ其ノ変形

ニヨリ精度ニ影響ヲ及ボスヲ以テ制式改正ニ付検討

スルヲ要ス

ホ 各種兵器ノ定数等ニ関シ十分検討整理スルノ要アリ  
ト認ム

ハ 各種照準眼鏡ノBハ之ヲ廢シ中隊ニ一箇ノ豫備ヲ  
與フルヲ以テ足ルモノト認ム

ト 九五式照準眼鏡丙ノ内部破損ニ関シ研究ヲ要スル  
モノアリ

(三) 観測器材中電話線ハ敵弾ニ導線カ破壊セラレタル場  
合ノ保線用ニ補修用材料ヲ希望スルモノアリ研究ノ要  
アラン

(四) 擲弾筒

イ 属品及予備品ノ落矢多キニ鑑ミ携行法ニ付研究ス  
ルヲ要ス

ロ 駐環ノ落矢著シキニ鑑ミ更ニ研究ヲ要ス  
ハ 筒中腐蝕ノ著シキニ鑑ミ筒中ニ挿入シ置クカ如キ

## (五)

洗桿式手入棒（油罐共）ニ付改メテ研究スルヲ要ス  
 二 筒ト駐板トヲ結フ提把（皮又ハ帶地）ヲ装着シ泥  
 ニ塗レタル棒ノ手ニテ柄桿ヲ握ラサルモ可ナル如ク  
 改ムルヲ可トス

ホ 筒身外面錆染剥脱セルモノ極メテ多シ錆染ニ代フ  
 ル磷酸塩又ハ酸化皮膜法等ニ依ル簡易着色法ヲ以テ  
 修理スルコトヲ制式上許シ得レハ有利ナラン

## 彈藥

イ 九ニ式重機関銃彈藥ノ一保彈板ニ「一」三發ノ曳光  
 突包ヲ挿入シ置クコトニ付研究スルヲ要ス

歩兵第七聯隊ニ於テハ出勤ノ際演習用ノモノ十連ヲ  
 携行シ武漢攻畧戰ニテ彈着不明ノ際混用シテ有利ナ

- リシ経験ヲ有ス
- ロ 八九式重轟弾筒八九式榴弾ノ蓋板ト弾丸トノ間ニ  
炸薬露出セルモノ多数アリ甚タシモハ蓋板傾キテ炸  
薬中ニ半ハ没入シアルモノスラアリ制式上考慮ヲ要  
スルモノト認ム
- ハ 曳火手榴弾十年式信管ノ被帽ノ眩落セサル如ク改  
修スルヲ要ス
- ニ 曳火手榴弾十年式信管ノ撃針螺入式ヲ改メラレ度  
希望相当ニ多シ
- ホ 九二式歩兵砲榴弾彈薬筒ニハ取扱上不便ナルコト  
多ク装薬ノ湿润ヨリハ弾丸ト薬筒ノ離脱スルコトカ  
軍隊ノ苦痛トスルトコロナルヲ以テ彈薬箱ト相俟ツテ  
研究スルヲ要ス

三 兵器ノ製造、修理、採用検査実施上参考トスヘキ事項

(一) 火砲関係

- イ 九四式山砲緊塞具匣ノ蓋ト体トノ間ノ緊塞ハ不良ニシテ蓋ヲ旋回スルモ全然緊塞セサルモノ多シ採用検査上十分ノ注意ヲ要ス
- ロ 全般ニ隅角部ニ尺ヲ附スル如ク工員ノ指導ヲ必要トス
- ハ 修理ノ際ハ豫備表尺表ニ就テモ十分修理ヲ完了シ置クヲ要ス
- ニ 戦場ニ於ケル現地修理ノ效果ハ極メテ大ニシテ現地修理済ノモノハ其ノ儘戦用ニ供シ得ヘシト認ム
- ホ 内地製品ト外地製品トノ間ニ制式改正ニ関シ前後十七社ク連繫ノ要アリ既製品ニ対スル修正可能ナル場合ニ於テ特ニ然リトス

(二) 擲彈筒

蓋螺ハ制式上目打ヲ施ササルニ拘ラス現品ニハ目打ヲ施シアリ軍隊ニ於ケル手入ニ困難ヲ惹スヲ以テ止ムルヲ要ス

(三) 彈藥關係

緩燃導火索ノ内部塗料夏季ニ於テ浸出シ又索膨張シテ留管ニ挿入困難ナルモノアリ特ニ車渡後支給セラルルモノニ多シト称シアリ採用検査上注意ヲ要ス

四 兵器取扱保存上留意スヘキ事項

當師團ノ実情ニ倣スルニ兵器保存要領ハ兵器部ニ於テ携行シ必要ニ應シ所要ノ事項ヲ摘録配付シ部隊ヲ指導セリト云フ

然レトモ兵器保存要領ニテ手入保存材料ニ対シテハ之ヲ使用ニ躊躇セル形跡顯著ナリト認ム

元来兵器保存要領ハ兵器ノ平時ニ於ケル完全保存ヲ教示  
 スルノミナラス兵器保存ノ基本觀念ヲ与ヘ以テ交通應用  
 ノ源泉ヲヲシムルヲ目的トスルニ拘ラズ多ク其ノ末節ニ  
 拘泥シテ只誤リナカランコトノミニ汲々乎タルノ実情ニア  
 リ之根本精神ヲ把握セシメサル平素ノ教育ノ欠陥ニ基ク  
 之ノナリト認ムルモ事實ハ如何トモ爲シ難キヲ以テ平素  
 ニ於ケル取扱保存ノ教育ヲ深刻ニ徹底セシムルト共ニ一  
 方速カニ戰時向ノモノニ付調製ヲ促進スルヲ要ス例ハハ機  
 関銃ハ要スレハ水洗シ得ルコト明示セラレアルヲ以テ使  
 用後多クハ水洗セシモ油ニ就テハ軍隊ニテハスピンドル  
 油ノ代リニ胡麻油ヲ使用シテ差支アリマナシマヲ判断シ  
 得サリシ狀況ナルヲ以テ油ハ空気が鉄部ヲ遮断スルモノ  
 ニ付胡麻油ニテモ菜油ニテモ植物性ノ油ハ戰場ノ臨機使  
 用可ナリ只機関銃ノ如ク送彈機能ニ注意スヘキモノハナ

ルヘク粘リ少キ油ヲ使用スヘシ程度ノ寧口原則ヲ教フルト共ニ豫想戰場附近ニ多ク使用セラレル物料中保存手入材料トナルヘキモノノ調査ヲ完了シタルヘク之ヲ列挙説明スル等ノ方法ヲ採用スルヲ要ス

軍隊ノ所謂保存要領ノ戰時化トハ恐ク前記ノ要領ニ依ル簡易ニシテ枚数少キ冊子ヲ以テ十分希望ニ副ヒ得ヘシト認ム

尚當師團ノ經驗範圍ニ於テハ保存手入材料欠乏シ競ツテ慰問袋ノ上包布ヲ用フルハ勿論中ニハ被服ヲ破リテ之ニ充ツル等ノ苦境ニアリ為ニ兵器ノ機能障害並ニ毀損ノ原因トナリタルコト大ナルヲ以テ莫ニ兵器手入材料ノ補給ノ必要ハ遙カニ被服慰安品ニ優リ深刻ニ考慮スヘキモノナルコトヲ痛感セル次第ナリ

尚参考トナスヘキ事項列挙スレハ次ノ如シ



(一) 火砲ニ於テ砲身ノねぢ、防楯ノ「ボルト」ナツト等ノ緩解セル儘放置シアルモノ鎖栓降下ニ対スル處置ニ付比較的簡易ナル修正ヲ為シ得ルニ拘ラス其ノ儘放置シアルカ如キハ「触ラヌ主義」ニ基クモノニシテ指導上注意ヲ要ス

(二) 裝填演習用彈藥筒ニ就テ

裝填演習用彈藥筒信管ノ駐釘ヲ以テ腔綫起部及内台連接部ニ打痕ヲ生シタリト認ムルモノ少カラス未熟練兵ニ対スル教練ノ激甚ナル為止ムヲ得サル現象ナリト雖モ極メテ初期ニ於テハ駐釘ナキモノヲ以テ要領ヲ教ヘ漸次駐釘アルモノト雖モ差支ナキニ至ラシムルカ或ハ裝填演習用彈藥ハ軟キ金屬ノ駐釘ヲ使用シテ信管測合演習用ノモノト別箇トモノトスルカ孰レカノ方法ヲ採ルヲ要ス

(三)

九二式歩兵砲停彈ニ対スル処置ニ就テ  
 歩兵第三十五聯隊ニ於テ經驗シタル停彈及其ノ処置ハ  
 参考トナルヘキヲ以テ左ニ部隊ノ記録ヲ其ノ儘再録ス  
 其ノ処置法ニ付慎重ヲ期シタル点ハ兵器發護上適切ト  
 ルモノト認ム  
 尚右停彈ハ弱裝藥ニ於ケル吸湿裝藥ニ基因スルモノノ  
 如シ

「九二式歩兵砲榴彈腔中停彈ニ當リ之ヲ除去法

當小隊ニ於テ四月四日補充兵ノ戰術射撃實施中第八發  
 目ニ至リ鈍イ裝藥燃焼ノ音ヲ發シタルニ依リ危險ヲ感  
 シ全員退去セシメ約一分間經過後演習小隊長(古田曹長)  
 閉鎖機ヲ閉メ調査シタルニ裝藥ハ全部燃焼シ彈丸藥室  
 ヨリ約六糎前進シ腔中ニ停止シアリ依ツテ支那家屋ヨ  
 リ火箸ヲ持チ來リテ創意工夫シ漸クニシテ信管ヲ離脱

所有手段ヲ盡シ禁空方面ニ彈丸ヲ後退セシムル如ク努カスルモ二十四條ヨリナル腔綫ニ楔入セシ彈丸ハ除去全ク難ク大隊兵器班ニ連絡スルモ除去法業ナク大隊長ノ許可ヲ受ケ揚子江ニ警備中ノ第十一戰隊軍艦堅田ヲ訪テ砲術長黒木海軍大尉ノ御教示ヲ乞ヒ種々専門的ナル指導ヲ乞フノミナラス砲術学校教員トシテ六ヶ年モ勤務サレシ黒田兵曹長及技術者一ノ派遣ヲ乞ヒ、次ハ如ク加工ヲ行ヒ之ヲ除去ヲ行ヘリ

日 時 四月四日十一時二十分

場 所 新堤北側

射撃目的 補充兵ニ対スル戰術射撃

射 距 離 八百米

天候気象 快晴ニシテ微風アリ

停彈理由 裝薬ノ潤滑ニ依リ燃焼時間カ長カリシ為停彈セシモノナリ

除去セル日時

四月五日十三時二十分

場所

新塚北側

除去法

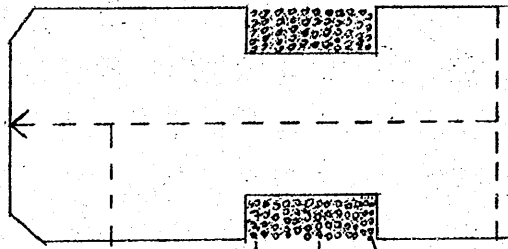
停弾セシ彈丸ノ後端ニ第一回ノ円材ヲ入レ一號装薬ヲ

以テ射撃セリ

除去後ノ處置

綿密ナル手入ヲ実施シ腔中ヲ嚴密ニ調査セルモ何等

異ル所ナシ依ツテ爾後実験射撃ヲ行フモ異常ナシ



円材直径ヨリニ概小

ガス上(彈帶代用)

スパニアン

彈底面ト装薬前面ヨリ五線短クス

## 実施上ノ注意

- イ 円材ニ巻キタル「スパン」ハ植ヲ以テ叩キ下ラ巻キ  
円材ヨリ若干大ナルヲ要ス
- ロ 序彈ノ射出セル場合砲口前ニ於テ円材ハ飛散セル  
ヲ以テ百五十米附近マテハ危険ナリ危険豫防上注  
意スルヲ要ス
- ハ 円材ニハ極ヲ使用スルヲ可トセン止ムヲ得ヤレハ  
松柏ニテモ可ナリ
- (四) 眼鏡測器ノ取扱ニ就テ
- イ 光学部岳ニ塗油シ又油ノ附着シタル指ヲ以テ触ル  
ル形跡アリリ指導上注意ヲ要ス
- ロ 測遠機ノ規正板ヲ彼此混淆使用セルモノ跡ヲ絶タ  
ス兩者ノ關係ノ密接不可分ナルエトヲ一層徹底セ  
シムルヲ要ス

ハ 光学兵器ノ保存ニ関シ個人的ニハ相當認めヘキモノアリト雖モ全般的ニハ未タ十分ナリトハ認め難ク又密閉格納ノミニ徹底シ時トシテ湿気中ニ密閉スルノ虞ナシトセズ通気良好ナル處ニ置キ乾燥セシムルノ著意ヲ徹底セシムルノ要アリト認め

## (五)

彈藥ニ関シテハ確實ニ理解シテ取扱ニ從事セリト認め難キ点多々アリ事変以來教育ヲ施ス暇ナク見覚えニ依リテ取務シアルモノ多クハ想像ニ難カラサルヲ以テ機会ヲ求めテ其ノ教育ヲ徹底スル如ク計畫スルノ要アリト認め

## 五

保存取扱ノ諸規定ニ関スル事項

## (一)

兵器保存要領ノ戦場手入法摘録ニ関シテハ既に述べタルカ如シ

## (二)

戦場ニ於ケル兵器業務ノ準據トナルヘキ規定ヲ作製

シテ野戦ニ於ケル兵器業務上、細部ノ報告、通報等業務上ノ基準ヲ與ヘ勿ヤ、商業務ノ混乱ヲ防止スルコト最モ必要ト認ム本件ハ既ニ着手セラレアリト信スルモ迅速ニ完了シ置クヲ要スト認ム

(三) 兵器履歴ハ戰場及留守隊ノ現実ノ状態ニ対照シテ稍、平時業務的ノ態々ニシテアラス戰時之カ適用ヲ緩和スル如キ記録書類ハ寧ろ最初ヨリ要求スルコトナク眞ニ緊要ナルモノニテ絶対的ニ要求スル如ク研究スルヲ要ス

又部隊ノ実情ニ鑑ミ前述戰場兵器業務書類中ニ履歴ノ取扱法ヲ説述シ彈數、運行量等ノ記載スヘキ標準ヲ明カニ為シ置クヲ可トス

(四) 修理区分表ニ依ル修理制限ト戰場ニ於テ應急的ニ戰力恢復ノ為ニ執ルヘキ処置ニ付誤解ヲ有シ戰場ニ于テ

制限品ニハ手ヲ触ルヘカラスト為スモノ多シ之一面ニ  
 ハ企圖心ノ欠乏ニ基クモノナリト雖モ又他面ヨリ觀察  
 スルトモハ平素ノ職ト兵器教育ノ不適當トノ致ストコ  
 ロニシテ大イニ反省ヲ要スルモノアリ平時ニ於ケル修  
 理制限ト戰場修理トノ關係ニ明瞭ナル認識ヲ與ヘ戰場  
 修理ノ着眼事項ヲ指示シ置クヲ適當ト認ム

## (五)

廢兵器檢定法並復旧兵器檢定法ニ關シ建<sup>ヲ</sup>ニ具體的ニ  
 指示スルヲ要ス敢テ全兵器同時ナルヲ要セス又最新ヨ  
 リ完全ナルヲ要セス現時局下ニ於テ何等基準トスヘキ  
 モノナク(現規則ハ其ノ儘使用シ得サルヲ以テナリ)推移  
 シツツアルハ適當ナラスト認ム  
 然ラサレハ往々復旧ノ基準ヲ誤リ又主管者ハ機会ヲ求  
 メテ完全ナル兵器ヲ受領セントスルノ心理ニ左右セラ  
 レ而モ勿々ノ實際的檢定検査ヲ十命實施スルノ餘裕



十\*ニ於テ特ニ然リトス

六 代用品ノ使用ノ状況並之ニ対スル意見

代用品トシテハ「ゴム」引圧捺綿布ノ韃靼馬具及劍帶ニ使用シ前者ハ伸ヒナリ切斷シ若クハ緩喉革、袴革等馬具ニ蝕ルル部分ニ於テハ馬具ヲ傷ケ又後者ハ背囊ノ吊鉤等ニテ表面ヲ傷ツルコト多シトノ意見ヲ有スルモ獸地ニ残置シタル為現品ヲ知ル能ハス未タ本代用品ノ根本的價値判断ニ資スヘキ意見ハナキカ如シ

但シ馬具損傷ニ付テハ速カニ研究ノ要アリト認ム

武漢攻畧戰ニ於テ緊需編成ヲ獸馬編成ニ變更スル必要上現地ニ於テ急造駄鞍ヲ作製シテ制式品ノ不足ヲ補ヒタル事實アリ現品ハ獸地ノ白樫ヲ以テ作リ之ニ若干ノ金具ヲ有スルモノト全然金具ナキ組合セ式ノモノト二種アリ又褥ハ南京袋ニテ作り藁ヲ詰メタルモノナリ其ニ制式品ニ

比シテ輕ク該作戰間ニハ十分效力ヲ得タリト云フ本師團  
ニ限ラズ駄鞍等ノ急造代用スルノ例少カラズ又制式品ヲ  
以テ常ニ必スシモ完全ニ裝備スルコトヲ得サル場合多クニ  
鑑ミ簡易製作法ヲ恰モ戰時手入法同様ニ作製シ置クヲ適  
當ナリト認ム

又野繁勒ハ苧麻ヲ以テ製作スルコトヲ奨勵シ優秀ナルモ  
ノハ師團長賞ヲ與ヘラレタリト謂フ現岳多數アリ復旧ニ  
際シテハ返納スト稱シアルモ無意味ナルヘキヲ指摘シ置  
ケリ其ノ外水囊袋等ノ袋類ハ現地ノ綿布材料ヲ以テ製  
作使用シ某歩兵隊ニテハ其ノ約子ヲ歸還ノ際持歸リアリ  
其ノ程度ハ良好ニシテ実用上尠モ支障アルヲ認メス

## 第五 所 見

## 一 復舊調査ニ就テ

復舊ノ調査、指導ハ為シ得レハナルヘク各主要兵器毎ノ専門  
者ヲ含ム一團トナシ同時ニ之ヲ行ヒ要スレハ爾後特ニ必  
要ナルモノノミニ付點檢指導的ニ視察員ヲ派遣スルヲ可  
トス

然ラサレハ軍隊ハ數次ノ兵器陳列ト判定ノ變更ニ煩ハサ  
レ好マサルノミナラス教育演練等ヲモ阻害スルニ至ルコ  
トアルト共ニ又中央機關相互ノ連絡ニモ適確ヲ缺ク點極メ  
テ多シ

本國ハ怡モ東京工廠ヨリ光学兵器關係、大阪工廠ヨリ火  
砲關係ノ將校派遣セラレ技術ノ視察ト同時ニ現地修理ノ  
下見ヲ実施シタルヲ以テ連繫上利スルトモ口大ナリキ

將米ニ於テモ斯ノ如クニシテ同時ニ部隊ノ兵器ヲ觀察シ  
 所要ノ資料ヲ得ルニ努ムルコトハ実行セラレシムコト  
 ヲ希望ス

又彈藥ノ返納品ト平時演習用充當品トノ区分及返納ノ方  
 法等ニ就テハ尙兵器本廠關係ト連繫協議ヲ要スル點多カ  
 ルヘシト認ム

特ニ彈藥ハ部隊ノ現在ニ直接關係ヲ有セザルヲ以テ因却  
 セラレ易キ傾キアリ速ニ且適確ニ處置スル如ク指導スルヲ  
 要ス

二 彈藥（特種彈ヲモ含ム）多數携行シテ原駐地ニ歸還スルコト  
 ハ危険ナルノミナラス復舊業務ヲ困難ナラシムルヲ以テ  
 中途適當ノ箇所ニテ引上クルヲ可ナリト認ム  
 殊ニ今後調製並ニ補給経路等全ク不明ナル彈藥ノ長期現  
 地貯藏後ニ於ケル輸送ハ一段ノ考慮ヲ要スルモノト認ム  
 三 復舊後ニ於ケル火砲ノ彈道癖測定ニ就テ  
 歴戦後ノ火砲トシテ相當ノ弛緩部位ヲ有シ又砲腔ノ摩損  
 モ稍甚タシキモノアリ現地修理ニ於テ修正セラレ又觀線  
 検査及測腔検査ハ実施セラルヘキモ隊トシテハ実射ニヨ  
 リ彈道癖ノ測定ヲ行ヒ修正量ヲ確認シ置クノ要アリト認  
 ム  
 之ニ要スル彈數ハ代用彈ニテ一門十發ヲ以テ足ルモノト  
 思惟ス 將來復舊火砲ニ對シテハ努メテ之カ勵行ヲ慫慂  
 セラレ度差當リ山砲隊ニ對シ所要量ノ彈藥支給方配慮ヲ

望ム

四 眼鏡類ノ現地修理ノ実績ニ就テ

先ニ派遣セラレタル光学兵器修理班ハ相當ノ效果アリシ  
 モノト判断スルモ其ノ実施後ノ保存ヲ見ルニ單ニ曇リノ  
 拭淨等ノミニテハ何等ノ價値ヲ存セス修理直後ノミハ良  
 好ナルモ早キハ二三週程ニシテ再々曇リ始メ其ノ進度速  
 速ニシテ遂ニハ最少ニケ月位ニテ修理前ヨリモ却ツテ甚  
 シキ程度ニ曇ル由ナリ從ツテ部隊ニテハ今日迄実施ノ方  
 法ニテハ喜ハサル狀況ナリ

修理後乾燥空気充填ヲ必須ノ要件ナリト認ム

五 視察ノ順序ニ就テハ地理的關係上万止ムヲ得サルモノ

ノ外ハ兵器部ノ視察ハ最終トシ且兵器部長トシテ執リツ  
 、アル方策ニ就キ報告セシメ同時ニ師團管下全部隊ノ視  
 察結果ニ基キ注意ヲ要スヘキ事項、制式改正意見ニ對ス

ル回答等ニ付總括シテ視察官ノ意見ヲ述ヘ視察官ノ指示  
指導事項ノ徹底ヲ計ルヲ可トス

六 今回視察セル兵器ノ程度一般ニ良好ナルハ現地修理及  
交換並ニ歸還後ノ手入ニ依ルトコト相當大ナルモノアル  
ヲ以テ實際戰場ニ於ケル狀況ハ數等不良ナル状態ニアル  
ヘシ

依ツテ今後視察ノ際ニハ必ス其ノ視察兵器ノ支給時期、  
獸歴及修理等ノ調書ヲ提出セシメ之ト對照考察スルヲ要  
ス然ラサトハ兵器制式ニ對スル誤認ヲ生スル虞大ナルヘシ  
七 部隊ノ制式改正意見ニハ大イニ視ルヘキモノナキニアラ  
スト雖モ在々制式ヲ理解セズシテ制式ヲ論議スルモノ樹  
ナカラス宜シク軍隊ハ技術部隊ト援携シテ国軍兵器ヲ完  
成スル一翼ヲ為スモノナリトノ觀念ヲ培養シテ具體的改  
善意見ヲ提出スル如ク識見ヲ向上セシムル<sup>中</sup>指導スル

ヲ要ス

ハ 瞬発、短延期信管ノ支給比率ニ就テ

歩兵各部隊ノ意見ニ依レハ一般ニ短延期信管ノ使用ヲ好マサル傾向ニアリ、戦闘尙瞬発ヲ多ク使用スル結果短延期ノミヲ設置セラレタリ是後者ハ音爆多ク観測困難ニシテ實際其ノ效果ノ確認不十分ナル結果ト認ム

部隊ハニ働信管ノ支給ヲ希望シアルモ使用ニ自信ヲ有スル瞬発信管ノ支給比率ヲ更ニ大ナラシムルコトニ付、研究ヲ要スルモノト思惟ス

カ 十四年式拳銃ハ教育及訓練用トシテ速カニ若干數ノ支給ヲ必要ト認ム

當師團トシテハ二十六年式拳銃ノミヲ所有シ十四年式ハ歸還ノ際野戦病院ヨリ入手セシ十數挺アル由ナルモ各部隊ノ使用ニ充タス明日動員トナリ十四年式ノ支給アルモ



使用上自信全クナシニ二十六年式拳銃ハ其ノ信頼ノ度全ク  
ナク却ツテ膨大ナル体型ヲ持余シアルノ景況ナリ

尙部隊ハ動員計畫上ニ於テ二十六年式拳銃トナリアル例  
係上若シ即時動員ノ場合ニ二十六年式ヲ其ノ終支給セラル  
ルニアラサルヤ然ルトキハ現在ノ終ノ撰品ニテハ不安ニ  
付之カ修理ヲ如何ニスルヤヲ考慮シアリ處理ニ付明示セ  
ラルノ要アリト認ム

十 九四式三十七毫米ヲ教育用トシテ支給セラレアルモ之  
ニ附隨スルキ彈藥箱ヲ支給セラレアテス所要ナル裝填ノ  
訓練ヲ実施スルコト能ハサル狀況ニ在リ速カニ支給スルヲ  
要スト認ム

十一 新制式兵器ハ若干迅速カニ各隊ニ支給シ教育ヲ徹底セシ  
メ置クヲ要ス殊ニ動員兵器ニ於テ然リトス  
本作ニ就テハ屢々報告セラレアル所ナルモ未タ実現ヲ見

ナル所多キヲ遺憾トス嘗テ十年式新彈筒力未教育ノ終戰  
 地ニ於テ支給セラシテ殆ト其ノ取テ為サザリシ卒キ經驗ア  
 ルニ鑑ミ特ニ部隊ノ申出ヲ至審ト思考セリ今事變ニ於テ  
 ハ吸着地雷、狙撃眼鏡附小銃又ハあか筒支給ノ如キ又九  
 二式步兵砲ハ動員第四日ニ教育用トシテ受領シ其ノ他九  
 三式電話機ハ現役者ノ一部ノミ僅クニ之カ使用ヲ知リアリ  
 テ何レモ戰場ニ於テ始メテ之ヲ見受ケ而テ直クニ實用セザ  
 ルハカラガル如キ場合ニ立至レル状態ナリシヲ以テナリ  
 士 兵器ノ亡失ヲ豫防シ整理ニ任スル為野戰病院ニ技術下  
 士官又ハ堪能ノ幹部ヲ附シ之ニ當ラシムルヲ可トス  
 第九師團ノ兵器特ニ個人裝備(小銃、眼鏡、拳銃、土工器具等)ノ亡  
 失ハ負傷ノ為衛生隊又ハ野戰病院ニ後送セラレタル場合  
 ニ生起スルニト甚夕多ク爾後其ノ行衛不明ニシテ探求ノ  
 途ナキヲ常トス 同師團ニ於テハ上海南京戰艦時其ノ亡

失着シカリシニ鑑ミ武漢攻略戦ノ審初ニ於テ患者兵器整理責任者ヲ設ケ處理ニ任セシメタリ即チ患者カ其ノ携帶兵器ヲ所持セル場合ト然ラサル場合トニ区分シ所持ノ場合ニ「銃ハ〇」「銃剣ハ△」「眼鏡口」等ニ證票ヲ造リ病院長之ヲ証明スルカ如キハ確實ナル方法ト思考ス

兵器尊重發護ノ上ニ於テモ本法ハ價値大ナリト認ム

三 戦列各部隊ニ兵器班ヲ設置スルヲ可トス

平時部隊ニハ兵器委員ノ編成アルモ動員部隊ニハ編成トシテハ之ヲ有シアテス然レトモ兵器ノ使用豫甚ニシテ且其ノ出納整理補給保存ノ煩雜且困難ノ度ヲ増大セル戦場ニ於テハ兵器部ノ意圖ヲ傳ヘ其部隊兵器業務ノ指導並ニ手入保存等ニ任スル為特ニ有カナル兵器班ヲ組織シ之ヲ聯大隊毎ニ分テ業務ノ的確ヲ期スルヲ緊要ナリト認ム尚該班ヲシテ出稼用工具ヲ以テ簡易ナル兵器修理ニ任

セシムルコトヲ得セシムルハ有利ナリ

十四 兵器ノ手入材料支給ニ關シ特ニ最大ノ顧慮ヲ拂フヲ要

ス

各部隊実戦ノ經驗ニ依ルニ全期間ヲ通シ最モ不自由ト困  
却ヲ感シタルハ手入用木綿及保存用脂油特ニ「スロンドル」油  
~~雜~~脂ナリ平時使用ノ際中油、 硼砂液ノ如キハ勿論之ヲ  
望ムヘカラサルモ僅カニ「スロンドル」油ノ一種サハ入手ニ苦シ  
ミ見ス見ス銃器等ノ手入ヲ不備ナラシメタル例甚カラズ  
軍トシテモ常ニ彈藥ノ補給ニ追ハレ油類ヲ支給シタルコ  
ト一因モ無ク地方ニ於テハ被服、慰安品、慰問品等常ニ  
洩洩ヲ感スル程ナリシヲ以テ中ニハ「酒ヲ送ルナラ油ヲ送ラレ  
度」トガハ申出ルモノアリコレ兵器ニ對スル眞ノ聲ナリ  
ト思考ス將來手入用材料ノ就地輸送及補給方法ニ就テハ  
特ニ改善ノ要アルモノト認ム

十五 兵器部ニ兵器修理工場ノ設置ヲ促進シ強ヒテ工廠修理ヲ要セサル程度ノモノヲ處理セシムルハ修理上及訓練上頗ル有利ナラント思惟ス

現状ニ於テハ相当技能ヲ有スルモノ召集セラレアリ且復舊等ノ為ノ修理多ク而モ漫然之ヲ各部隊工場ニ委ヌルハ修理總力ノ發揮並ニ修理統制ノ見地ヨリスルモ適當ナラズト認ムルニ依ル

十六 兵器教育資材整備ニ就テ

部隊トシテハ新制定ノ兵器及未支給兵器ニ對シ教育指導ノ見地ヨリ若干宛ノ支給ヲ希望シアリ是等ハ部隊ノ実情上至當ノ意見ト思存セラル又教育用掛圖ノ如キモノ、断面模型等ノ希望アリ一般ニ技術調製ノ各種兵器教育用掛圖ハ歓迎セラレアルモノ、如シ將來第ニ次トシテ更ニ調製掛圖ヲ拡大シ部隊ノ要求ニ應セントス

第六 各部隊提出意見並ニ希望及之ニ対スル

技術本部意見並ニ処置一覽表

其ノ一 制式ニ関スル事項(兵器一般)

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見及処置	備考
<p>將來兵器特ニ器材類ハ尙一層簡易化ヲ計ラレ度</p>	<p>戰時部隊ノ大部ヲ復修備役或ハ短期教育兵トシ現況ニ於テ機能發揮上又取扱保存上萬全ヲ期シ得ル如クスレ為</p>	<p>工九</p>	<p>本意見ノ如ク着意シ研究審査シアリ 但シ兵器ノ種類ニ依リテハ機能精度ヲ主トスルモノハ爲シ得ル限り簡易化スルモノ尙複雑ナルモノヲ生スルハ止ムヲ得サル点ヲ了承シ教育ニヨリ之ヲ取扱究壁ヲラシムルコトニモ留意セラレ度</p>	<p>研究中ナリ</p>
<p>金屬製品ハ尙一般ニ防錆法ヲ施サレ度</p>	<p>日本製品ハ支那軍兵器ニ比シ酸化防錆極メテ大ニシテ取扱上機能上支障多シ</p>			

其ノ一 制式ニ関スル事項（火砲関係）

<p>争 項</p>	<p>九四式山砲 ノ前脚及後脚 ヲ短縮スル フト</p>
<p>提 案 理 由</p>	<p>現火砲八砲車位置選定ニ方リ比較的広大ナル地域ヲ要シ障地占領ニ際シ地形ノ制限ヲ受ケ若クハ砲車位置不良為射撃精度ヲ著シク低下シ山砲ノ特性ヲ發揮シ得サル場合多シ故ニ射撃抵抗ヲ減セサル如ク前脚及後脚ヲ短縮シ又ハ前脚度ヲ少カラシムルヲ可トス</p>
<p>提案箇所</p>	<p>山砲九</p>
<p>技術本部意見不処置</p>	<p>第一項 要求セラルレ、砲車安定性能上之ムヲ得サルベシ 目下單一箭材式ニ就イテ研究中ナリ</p> <p>第二項 脚頭ノ分解結合法ノ簡易化ト同部動揺トノ関係ヲ考慮</p>
<p>摘 要</p>	<p>重量大ナル前脚ノ脚頭ヲ左右ニ動カシ結合ノ分解スルハ甚ク困難ニシテ操作ヲ遲滞セシム又ハ故障</p>

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘 要
<p>3 轆桿装着ヲ 堅確ナラシム ルコト 特ニ轆桿駐 栓ノ鍵ノ連結 環ノ強度ヲ増 加セラレ度</p> <p>4 方向照準機及 高低照準機 ヲ強靱ナラシム</p>	<p>ヲ生スルコト多シ 縦方向ニ押シテ結合スル 如ク改正スルヲ可トス 猶現在ノ脚頭結合部ハ 結合上事故多クヲ以テ 之ヲ改正ヲ要ス</p> <p>現在ノ轆桿駐栓ハ自然ニ 脱シ易ク且後脚ノ鏢板ハ 薄弱ニシテ破損シ易ク 以テ改善ヲ要ス</p> <p>現在ノモノハ空転動搖ヲ生 スルコト甚クシ齒板起動 軸托架自在接手或ハ齒軌</p>	<p>九 兵 山砲九</p>	<p>ノ上改正スヘシ</p> <p>第三項 轆桿駐栓ハ改善スル 如ク研究スヘシ鏢板 ハ抜カ大ナル如ク改 正済ナリ</p> <p>第四項 研究中ナリ</p>	<p>鏢板ハ現地修理 ノ際ニ改修スルコト</p>

三三



<p>8 駐鋤ノ打込式</p>	<p>7 表尺眼鏡ノ倍率ヲ増大スルコト</p>	<p>6 復坐機緊塞具ヲ強韌ナラシムルコト</p>	<p>5 防楯裝着ヲ堅確ニスルコト</p>	<p>ルフト</p>
<p>企図秘匿、為、或ハ操作ノ簡易</p>	<p>表尺照準等ノ為、發見困難ナル地物ヲ視認スルヲ要スルコト多キヲ以テ現在、眼鏡ハ八倍位ニ増大スルヲ可トス</p>	<p>緊塞具一般ニ照準ニシテ「スピンドル」油又ハ空氣ノ漏洩スルニ至ルモノアリ</p>	<p>現柱ノ防楯ハ動搖甚クシク托筒ハ変形及磨損シ發射ノ際飛落スルモノ多シ 支桿駐板及托筒ノ形式ヲ改善スルヲ要ス</p>	<p>齒車等ヲ強韌ナラシムル 空際動搖ヲ少カラシムルヲ要ス 現柱ノ防楯ハ動搖甚クシク托筒ハ変形及磨損シ發射ノ際飛落スルモノ多シ</p>
<p>山砲丸</p>				
<p>第八項</p>	<p>第七項 實現シ難シ</p>	<p>第六項 研究スヘシ</p>	<p>第五項 研究スヘシ</p>	

事項	根拠理由	提案箇所	技術本部意見及処置	摘要
<p>9 駐壕機活塞 桿外筒小わか ノ自然脱落ヲ 防止スル如ク構 造ヲ改良スルヲ 要ス</p>	<p>此為打込式ナラサルヲ便トス 戦闘間某部隊ニ於テハ殆ト 全部脱落シ之カ為節制桿 ニ磨損ヲ生シ命数ヲ短縮 セシメトアリ</p>	<p>山砲九</p>	<p>研究スベシ 第九項 研究スヘシ 但シ部隊ニ於テハ緊定 ヲ十分ニスルコトニ注意セ ラレ度</p>	
<p>10 搖架ノ注油 器ヲ更ニ大ニス ル如ク改正セ ラレ度</p>	<p>注油器小ナル為搖架準板 ニ給油不足トナリ準板面 ニ燒附ヲ生シタルモノ約全 數ノ三分一アリ</p>	<p>九 六</p>	<p>第十項 形状ヲ改メ注油ヲ容易 ニナシ且其ノ位置ヲ改正 セリ 要スレハ更ニ根本的 ニ改善スヘシ</p>	
<p>11 復坐機ノ圧搾 空氣補給ニ関</p>	<p>復坐機用圧搾空氣欠乏シ 困難ヲ感シタリ</p>		<p>第十項 手押ポンプヲ附ス</p>	

三四

<p>シ考慮スル ヲ要ス</p> <p>12 ゴム製緊塞 具ノ收容箱内 ニハタルク等 ノ粉末ヲ混入 スルヲ要ス</p> <p>13 豫備器具箱 ノ改正</p> <p>(1) 收容セル所鑽 機豫備品ハ豫 備器具箱ニ收 入スルヲ要セス 但シ引鉄バね ハ倍加スルヲ要ス (2) 圧計、空気 接続管、注油</p>	<p>厄化防止上必要ナリ</p> <p>必要品ヲ收入スル為ナル ヘク之ヲ軽減セラレ度 各砲ニ一ツ宛テ強ヒテ要 セス</p>
<p>九 兵</p>	
<p>第十三項</p> <p>ノ (1) (ロ) / 不必要トモ ノニ就テハ研察ス ヘシ</p> <p>更ニ具體的意見 ヲ承リ度</p>	<p>ルフトニ付目下研察 中ナリ</p> <p>第十三項</p> <p>保存ニ關シテ八百下研察 中ナリ</p> <p>タルクノ混入モ可ナリ</p>

<p>事項</p>	<p>唧筒ハ豫備機          具箱ニ收入スル          ヲ要セス          (ハ) 坑蓋機ハ豫備          器具箱一四ニ          各一宛裝備シ          倍加スルヲ要ス          (ニ) 豫備器具箱          ニ亡失、毀損          シ易ク各種          小収ホ、鑿、          部品 復坐機          前方緊塞機          分解工具(新)          副機ヲ要ス          二百五十糎 平荒</p>
<p>提案理由</p>	<p></p>
<p>提案箇所</p>	<p>九 兵</p>
<p>技術本部意見又ハ処置</p>	<p>2 (ハ)ニ就テハポンプ          ト関連シテ快          スヘシ          3 (ニ)ニ就テハ(ハ)ノ項          ト関連シテ研究ス          ヘシ</p>
<p>摘要</p>	<p></p>

<p>14 駐劔拔ヲ強 大ニスルコト ルヲ要ス 加スヲ裝備ス 塞具部岳居 機復坐機緊 小万六、駐退 十本釘、釘 五十粒半丸、中 二百粒平、中、百</p>	
<p>15 洗桿機大部 ノ改正 洗桿ヲ砲腔ニ挿入シ砲身 搬送スル為洗桿機大部 ニヨリ磨損セルモノ多シ ゴム等軟材ニテ覆フヲ 可トセン</p>	<p>現在ノモノハ弱少ニシ テ效ガ十分ナラス</p>
<p>16 空気操縦管 緊塞ヲ強軟</p>	<p>接続部ノ緊塞能弱ニシ テ故障多シ</p>
<p>山砲丸 第十四項 第十五項 所要ノ修正ヲ施スヘシ</p>	<p>丸 兵</p>
<p>第十六項 研究スヘシ</p>	

事項	項	提案	理由	提案箇所	技術本部意見及配置	摘要
ナラシムルヲ	17 気圧計ノ改正	イ 戦車射撃	現在ノ制式ニテ振架 振把ノ操作上手ノ持テ 換ヘテ要スル故振把ヲ 著スルコトニ依リ手持テ換	山砲九	第十七項 研究スヘシ	
四一式山砲	ノ方向照準機 ノ左右分画ヲ 大ニスルコト	イ 戦車射撃	現在ノ分画ハ砲車 ノ安定上ノ最大限ニ シテコレ以上ノ増大 ハ安定ノ振カ上ヨリ 実施シ難シ	山砲九	第十七項 研究スヘシ	
ノ振架振把 ニ振把ヲ附 著スルコト	ノ方向照準機 ノ左右分画ヲ 大ニスルコト	イ 戦車射撃	現在ノ分画ハ砲車 ノ安定上ノ最大限ニ シテコレ以上ノ増大 ハ安定ノ振カ上ヨリ 実施シ難シ	山砲九	第十七項 研究スヘシ	
ノ振架振把 ニ振把ヲ附 著スルコト	ノ方向照準機 ノ左右分画ヲ 大ニスルコト	イ 戦車射撃	現在ノ分画ハ砲車 ノ安定上ノ最大限ニ シテコレ以上ノ増大 ハ安定ノ振カ上ヨリ 実施シ難シ	山砲九	第十七項 研究スヘシ	

<p>6 彈藥六發入ヲ 三發入トシ一駄</p>	<p>5 大聚良後方策 ヲ廢シ 九式山砲ノ如 ク前脚後脚ニ 改正スルヲ要ス</p>	<p>4 表尺數輪ノ直 徑ヲ大ニスルヲ 要ス</p>	<p>3 豫備表尺眼 鏡ヲ幕員箱ニ 收容スル如ク改 正ヲ要ス</p>
<p>山地臂力搬送スル際六發 入ニテハ過重ニテニ一三發抽</p>	<p>方向角ノ移動角少ク目標 三〇密位ヲ過クレハ漸ク整 固ニナレル架尾位置ヲ移動シ 照準標作確實ナルモ彈着ノ 差大ナリ</p>	<p>表尺ノ上下ニ多クノ力ヲ要 シ急ヲ要スル時敏活ナル動 作出来ス又僅少ナル上下ニ正 確ヲ欠ク</p>	<p>ハチ省路スルコトヲ得 現制式ニ在リテハ之ヲ收容ス ルモノナキヲ以テ戰鬪行動 間之ヲ携行ス不便ヲ感スルコ ト多シ</p>
	<p>步一九</p>		<p>步三五 步七</p>
<p>第六項 研究スヘシ</p>	<p>第五項 聯隊砲ノ根本ニ關シテハ希 望ノ如ク目下試製中ナリ</p>	<p>第四項 承リ置ク</p>	<p>第三項 研究スヘシ</p>

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見不処置	摘要
<p>馬三回彈藥箱ヲ敷載スルヲ要ス</p> <p>後砲架ノ掘込式ヲ打込式トスルヲ要ス</p> <p>車輪ノ裝置改造ヲ要ス</p> <p>砲身橫桿取附位置ヲ改正セラレ度</p>	<p>出シテ運搬セルモ危険ト兼英ノ地形ノ虞アリテ適当ナラス</p> <p>俾地進入ニ於テ時向ヲ要シ且土質不良ノ時ハ細密著セザル為</p> <p>山地戰ニ在リテハ平滑ナル俾地ヲ作ル為長時間ヲ要ス</p> <p>本砲山砲ノ如ク兩車輪平滑ヲ要セザル如クスルヲ要ス</p> <p>峻嶮ナル山地ノ分解搬送ニ於テ過テ砲身ヲ脱落セシカ重心ノ關係ニヨリ横桿ヲ下ニシテ落下ス之ガ為横桿駐檢ヲ折損シ砲身ノ結合</p>	<p>步一九</p> <p>步三五</p>	<p>第七項</p> <p>承り置ク</p> <p>第八項</p> <p>三點支持ナル故擺動ノ要ナシ</p> <p>第九項</p> <p>美術困難ナリ取扱ニヨリテ防止シ得ル如ク認メラレルニ付訓練ニ於テ注意セラレ度</p>	

三七



<p>九四式三十七糎砲          轆桿ノ折損          防止ノ為堅          牢ニ改正スル          フ要ス          不 轆桿ヲ増強          及増加シ歟</p>	<p>十一年式平射歩          突砲          復坐機能不良ト          ナルコト多シ復          坐ばね發條力          フ一層強軟ナラ          シムルヲ要ス</p>	
<p>砲尾ニ裝着スル部位ノ          鉄部短小ナル為折損不          モノ多シ鉄部ヲ延長シ          堅牢ナラシムルヲ要ス          緊締ノ場合ハ大ナル損傷          ナキモ砲架ノ駄載(卸下)</p>	<p>復坐ばねノ衰損速ナリ          ルモ交換部品ハ一組ヲ有          スルノミニシテ爾後補給          交換亦十分ナラス          多數彈發射ニ耐ヘ得ル          如ク經始及抗力ニ就テ改          正スルヲ要ス</p>	<p>不能トナル場合ヲ生ス</p>
<p>歩一九</p>	<p>歩七</p>	<p>歩三五</p>
<p>第一、第二項          轆桿増強ニ就テハ改          正ニ付処置スヘシ          員數ハ豫備隊車ニ          積載シアレルモノヲ          合シ四本トス</p>	<p>研究スヘシ          部隊ニ於テモ各部ノ          塗油手入ニ付注意セ          フ度</p>	

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見又ハ設置	摘要
<p>載(卸下)及砲架ノ六搬送ノ使用ニテ介置フルルヲセラレ度</p> <p>3 彈架車ハ堅牢ナルモノニ改正ヲ要ス</p> <p>4 方向齒軌ニ蓋ヲ装スルヲ要ス</p> <p>5 車輪ハ四一式山砲ト同様ノ車輪トスルヲ</p>	<p>特ニ二人搬送ノ場合砲架ノ重量ニ堪ヘ得ス致損線出不</p> <p>又取扱法ニハ四本ヲ使用スル如ク規長シヤルモ現在一門ノ定数ハ二本ナリ</p> <p>現制式砲ハ構造堅牢ナラサル為致損スルモノ多シ</p> <p>砂塵ヲ被ア為ニ齒軌ノ運動ヲ害スルモノ多シ</p> <p>若干ノ激動ニヨリ亀裂ヲ生スル現制式砲ハ四一式山砲ノ如クセハ之ヲ防</p>	<p>歩一七</p> <p>歩七</p> <p>歩一七</p>	<p>第三項 制式改正済ニ付 改修ニ提出セラレ度</p> <p>第四項 研究中ナリ</p> <p>第五項 既ニ改正済ナリ</p>	

<p>要ス</p>	<p>九二式歩兵砲 ノ 駐鋤ヲ打込 式ニ改正スル ヲ要ス</p>	<p>ス 砲架ヲ左記 ノ如ク(覆ス) 改正スルヲ要 ス</p>
<p>止シ得ヘシ</p>	<p>現制式岳ハ砲ノ駐定ニ 分ナラス</p>	<p>軟載セル場合砲架ノ重 量前ニ偏シ軟弱ノ前肢 ノ負担過重トナリ傾斜 地通過時等前膝ヲ底 シ冠膝ヲ生スル虞大ナリ 歩兵操典ニ示ス如ク彈 藥箱ノ負重ヲ上方ニシテ 置ク時ハ鑷板ヲ地面ニ触 レシメ損耗スルコト尠カラ ス</p>
<p></p>	<p>歩 七</p>	<p>歩 一 九</p>
<p></p>	<p>第一項 意見ニ添ヒ難キモ別 途ニ砲架ニ付 研究 中ナリ</p>	<p>第二第三項 研究スヘシ</p>
<p></p>	<p>平射一号裝藥ヲ 主体トスル実情 ニアリ</p>	<p></p>

<p>事項</p> <p>ト同型ニ改正 ヲ要ス</p>	<p>九二式歩兵砲 四一式山砲 彈匣抽出器ヲ削 ぎセラレ度</p>
<p>提案理由</p>	<p>撃方止トニ際シ閉鎖 機ヲ閉ク時薬筒ノミ抽 出セラレ彈丸ヲ腔内ニ残 スモノアリ信管ヲ装着 セル彈薬ノ抽出危険ナレ ヲ以テ該彈薬ヲ抽出スル 用具ヲ削去スルヲ要ス</p>
<p>提案箇所</p> <p>歩一九</p>	<p>歩七</p>
<p>技術本部意見及処置</p>	<p>九二式ハ改正済ナリ現 地修理ノ際実施セラレ 度 四一式山砲ニ就テハ改正 スル如ク研究ス</p>
<p>摘要</p>	

其ノ一 制式ニ關スル事項(測器眼鏡關係)

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘要
<p>光學兵器類ハ尙一般ニ機構ノ簡易化各部補強ヲ行フヲ要ス</p>	<p>野戰特ニ第一線ニ在リテハ携行運搬保存ニ極カ留意スルモ現況ニ於テハ萬全ヲ期シ難ク破損等多キヲ以テナリ</p>	<p>エ 九</p>	<p>機構ハナシル限リ意圖ノ如ク勉メアリ 尚運搬箱ノ緩衝ニ就キ研究スヘシ</p>	
<p>眼鏡ノ防湿方法ニ付制式上ノ指示ヲ承リ度</p>	<p>戰鬪ノ關係上湿润ハ已ムヲ得サルヲ以テナリ</p>	<p>山砲 九</p>	<p>現制式ノモノニテハ某程度以上防キ得ス ナルク取扱法ニ依リテ之カ缺ヲ補ハレ度 手入布ハ鐘詰式トシテ携行スル如ク研究スヘシ</p>	<p>油土ハ携行セス</p>
<p>九三式五十種觀測鏡 八九式双眼鏡 携帶法ヲ簡易ニシ之ヲ歩兵中小隊長全員ニ支給シ歩兵用双眼鏡ハ之ヲ以テ</p>	<p>現制品携行不便ニシテ行動ヲ妨クルト尠カラズ 九三式五十種ハ腰ニ掛クル時携行不便 八九式ハ形態大</p>	<p>九 七 兵</p>	<p>九三式五十種觀測鏡ハ輕量ニシテ耐湿性ノモノニ付研究試作中ナリ (四。輕程度ノモノ)</p>	<p>部隊志願高ハ輕量ナレハ潜望高ヲ若干短クスルモ可ヤリトス</p>

<p>事項</p> <p>止スルヲ要ス</p> <p>2. 五丁種觀測鏡ハ 尚之ヲ小形輕便ニ シ各分隊ニ其ノ一ヲ 其他指揮班用トシ テ裝備スルヲ要ス</p>	<p>提案理由</p> <p>實用上有利ナルモ携行ヲ 更ニ輕易ナラシムル爲</p>	<p>提案箇所</p> <p>步三五</p>	<p>技術本部意見又ハ処置</p>	<p>摘要</p>
<p>携帶測遠機、九ニ 式五十種探照燈 九ニ式經路機ハ實戰 的價值ニ乏シ</p>	<p>戰場ニ於テ支給セラレタルモ 使用ノ經驗ナシ又特ニ必要 ヲ感シタル戰例ナシ</p>	<p>步七</p>	<p>承り置ク</p>	
<p>九三式野戰輕測遠 機ニ就テ</p> <p>イ 本測遠機ハ今 少シ輕便ナラシ ムルヲ要ス</p> <p>ロ 角型折屈式鏡 筒ニ改正シ遮蔽 シテ測距量シ得ル如 ク改正スルヲ可トセン</p>		<p>步三五</p>	<p>折屈式ハ不可能ナリ 遮蔽測量ニ付テハ研究 スヘシ</p>	

四〇

<p>観測器具 駄載箱 ノ 縮少 軽減</p>	<p>八甲式野戦重測 遠機 ノ 縮少 軽減 2 托架ノ補強 3 潜望式トスルヲ 可トス</p>
<p>現 観測箱ハ稍膨大ニシテ 狭隘路局ノ通過ニ困難セシ コトアリ 且 重量大ニシテ人馬共ニ 駄載搬送ニ困難ニシテ取 扱ニ粗畧收入品ヲ損スルコト 多シ</p>	<p>現在ノモノハ形状ノ重量共ニ 大ニシテ山砲ノ特性發揮ニ 伴フ 利用甚々困難ナルコト 多シ 折畳式又ハ8cm位ニ短縮 軽減スルヲ可トス 現在ノモノハ薄弱ニシテ過 長ナル爲 動搖シ故障ヲ 生シ易シ 損害軽減ノ爲 潜望鏡ヲ 接続シ得ル如ク改善スルヲ 可トス</p>
<p>山砲九</p>	
<p>諒 承ス 九七式ニテ可ナラン</p>	<p>第一項 折畳式ハ不可能ナリ 九七式ニテ可ナラン 第二項 研究中ナリ 第三項 研究中ナルモ相当困難 ナルハシ</p>

6810

事 項	双眼鏡類ハ凡テ 潛望式(九三式五十 糧觀測鏡式)トナス ヲ要ス
提案理由	狙撃ヲ推奨スル敵軍ハ日 標ノ現出スヘキヲ想地ニ対シ 根元強ク待機シ而モ之ニ專 念セシメアリ 我軍ノ指揮官ニ受ケタル 損害甚カラス之ヲ避ケル爲
提案箇所	歩 一九
技術本部意見又ハ処置	直今ニ同意シ難シ
摘要	

四一



0670

其ノ一 制式ニ関スル事項（彈藥関係）

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見及処置	摘要
<p>九四式山砲彈藥箱 ノ四糸入ニ改正 スルコト</p> <p>2. 蓋板ヲ強韌 堅確ナラシムル コト</p> <p>3. 木製彈藥箱 ヲ併用スルコト</p>	<p>現在大糸入ハ兵力及馬力ニ 対シ共ニ過重ニシテ臂力 ニ依ル搬送困難ニシテ又 馬匹ノ疲弊大ナリ、四糸入 ヲ適當トス</p> <p>蓋板ノ蝶番部脆弱ニシテ 破損セルモノ甚タ多シ 補強改正ヲ要ス</p> <p>鉄製彈藥箱ハ重量大 ニシテ不便ナルヲ以テ戰 砲隊ヲ除キ他ハ木製ニテ 可ナリ</p>	<p>九 兵</p> <p>山砲 九</p>	<p>第一項 收容彈藥數ニ関シテハ 編制ト関連シテ研究ス</p> <p>第二項 強度ハ制式改正セルモ尚 抗力不足ノ傾向アルニ付 更ニ研究ス</p> <p>第三項 研究スヘシ</p>	<p>半分ハ素箱半分 ハ戰砲隊彈藥箱 ニテ補給ヲ実施セ リト</p>

<p>事 項</p> <p>彈藥箱、器具箱等ノ蓋副板、蝶番、餘端ハ蓋幅全體ニ至ル如ク改正スルヲ要ス</p>	<p>彈藥箱</p> <p>戰時聯重隊積載用及駄畜用ノ制式彈藥箱ヲ廃止スルヲ要ス</p>
<p>提 案 理 由</p> <p>現製品ハ副板中肉ニテ伸ビアルニ依リ中肉ニ於テ蓋板ニ破損ヲ生シ使用ニ堪ヘサルニ至ルモノ多シ</p>	
<p>提案箇所</p> <p>凡 兵 歩 七 歩 三 五</p>	<p>凡 兵</p>
<p>技術本部意見及處置</p> <p>改正ニ付研究ス</p>	<p>改マルヲ定キナリ</p>
<p>摘 要</p>	

<p>額染素箱ハ更ニ左記ノ諸點ニ付及正スルヲ要ス        箱ノ外側ニ彈種員數及信管ノ種類員數又ハ信管ノ有無等ヲ側敵ヤサル材料ヲ以テ明記スルコト</p>	<p>又、駄馬師団ノ駄馬片背ニ積載スル彈藥數ヲ一箱トシ箱ノ西端ニ懸紐ヲ附スルコト        (一箱ノ收容數ハ小銃機関銃彈藥ヲ除キ改正運搬箱收容數ノ二倍トスルコト)</p>
<p>大兵</p>	
<p>第一項        趣旨ニ添フ如ク研究スヘシ</p>	<p>第二項        研究ス</p>

<p>率</p>	<p>3. 素箱ノ棕根繩 ハ更ニ長クスルヲ 可トス</p>	<p>素箱ハ便利ナルモ懸 鏈ニカケル時繩短ク 不都合ナリ</p>	<p>山根 丸</p>	<p>第三項、第四項 研究スヘシ</p>	<p>摘</p>
<p>手榴彈ニ就テ ノ身ハ手榴彈十 字式信管ノ擊 針ノ驟ハ装置ハ 禁止スルヲ棄ス</p>	<p>久 横ニ狭ク縦ニ 高クセラレ度</p>	<p>廣 廣ニ狭ナレハナリ</p>	<p>大 兵</p>	<p>第一項 研究スヘシ</p>	<p>要</p>

四三

<p>3 手榴彈ノ改正 ヲ要ス</p>	<p>2 既、火手榴彈十 年式信管(九七式 手夜榴彈九七式 信管共)ノ被帽抗 力ヲ増強スル如ク 改修ヲ要ス</p>
<p>戰場心理ノ機微ナル作用ヨ リ考察スルトキハ手榴彈ノ 發火時間ハ極メテ短少トナル ヲ適當トスヘク其ノ時間ハ三 秒ヲ可トスヘク又未知ノ地形 敵情等ニ於テ歩哨力敵ノ近 接ヲ迅速ニ戒ムル用ニ供スル 爲メ新式木柄手榴彈ヲ改 良稍少量且短時間發火 トスルヲ可トセン</p>	<p>該信管被帽ノ下端屈曲部 ヲ以テ信管体上部溝ニ吻 合スル部分抗力過弱ニシ テ今次歸還彈藥中ニモ被帽 ノ離脱セルモノ又ハ安全栓ヲ 離脱セハ直チニ被帽ハ逸散 スルモノアリ從ツテ效力ノ發 揚ヲ期シ難シ</p>
<p>歩三五</p>	<p>九 兵</p>
<p>第三項 改正セラレタル手榴彈 (九七式)ノ延期秒時八四秒 ナリ試製柄付既火手榴 彈モ同様ナリ尚現制ノ モノヨリ更ニ輕量ノモノニ 付研究中ナリ</p>	<p>第二項 研究スヘシ</p>
<p>研究スヘシ</p>	<p>研究スヘシ</p>

<p>事 項</p>	<p>4 手投彈ノ点火装置ヲ簡單ナラシメ且点火ヲ確實トシラシメラセ度</p>	<p>八九式重擲彈筒八九式榴彈蓋板ノ固定密接ヲ良好トラシムル如ク改修ヲ要ス</p>
<p>提 案 理 由</p>	<p>現制呂ハ信管ノ制式稍々複雑ナル爲準備時間ナキ時ハ動モスレハ撃針ノ螺入不確實トナリ爲ニ爆発セルノミナラス却ツテ之ヲ敵ニ利用セラルル損失アリ</p>	<p>還送彈筒中左図(略)ノ如キ不良彈多數アリ該部分ノ密接不十分ノ多炸藥ノ漏出シアルモノ多ク因ヨリ作業ノ欠陥ニ起因スル処大ナルヘキモ同部ノ構造ニモ不備多カルヘシ</p>
<p>提案箇所</p>	<p>歩一丸</p>	<p>九 兵</p>
<p>技術本部意見ハ処置</p>	<p>第四項 本彈ハ使用ニ際シ彈筒箱ヨリ取出ス際ニ撃針ハ十分螺入スルモノナレハ螺入不確實ナルハ三枚育ニ俟ツ外ナシ 尚理由中準備時間ナキ時ハハ解シ兼ヌ</p>	<p>研究ハスヘキモ 火工作業ニ於テナルヘク注意セラレ度</p>
<p>摘 要</p>		

<p>八九式重機銃筒 彈藥ノ不發防止法 ヲ考慮セラレ度</p>	<p>八九式歩兵砲藥筒 (乙)ハ廢止スルヲ 要ス</p>	<p>八九式歩兵砲彈藥 箱ハ左記ノ如ク(略ス) 改正ヲ要ス</p>
<p>製作年月日稍古キモノハ 是ガ在不發彈ヲ生ス之カ防 止法ヲ考慮セラレ度</p>	<p>1. 彈丸ト藥筒ノ接合部ヨ リ濕氣浸入ス 2. 彈藥箱ヨリ取出ス場 合ニ離脱ス 3. 射撃中其ノ場合藥室 ヨリ抽出スルニ當リ彈丸 ノミ残リ之カ抽出ニ危険 ヲ伴フ</p>	<p>藥筒ニテ用フル場合其ノ抽 出ニカク彈體ト藥筒ト離 脱シ特異ノ方法ニヨラサルハ カラスシテ突戰的トラス</p>
<p>步三五</p>	<p>九 六 步 七</p>	<p>步 一 九</p>
<p>將來一番方形藥ヲ使用 スル如ク研究中</p>	<p>改正方研究スヘシ 但シ彈拔ニ就テハ処置 済ナリ</p>	<p>改正方研究スヘシ</p>
<p>一三二ハ〇發使用セ ルコトアリト 多分保存ノ不良ニ ヨルモノナルヘシ</p>		

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見及処置	摘要
<p>九四式山砲藥莢口部 圧塞量ヲ増加スル如ク改修ヲ要ス</p>	<p>九四式山砲彈藥筒(旧式彈丸ニシテ彈尾部ニ圧入溝アルモノヲ除ク)ハ運輸間彈丸及藥莢離脱シ彈軸ノ変移スルモノ多キニ依ル</p>	<p>九 兵</p>	<p>現在ノ処処置ナシ</p>	
<p>同種類信管ハ出来得ル限り使用区分ヲ單一化スル如ク制定スルヲ要ス</p>	<p>例ハ「瞬糸信管」横白野山加ノ区分ナク戰地補給廠ヨリ補填セラレ使用上支障ヲ生シタル例アリタリ</p>	<p>九 兵</p>	<p>不可能ナリ</p>	
<p>短延期信管瞬糸信管兩用ノ單一信管ヲ作製スルコト</p>	<p>信管ノ補充並ニ使用上便宜大ナルモノアルヘシ</p>	<p>山砲九</p>	<p>九八式ニ働信管制定セラレル旨</p>	

四五



<p>聯糸短延期信管附榴弾火銃彈ニ働信管(九六式ニ働信管「野山」ヲ装着セシムル如ク改正スルヲ要ス</p>	<p>九二式重機関銃彈藥ノ一保彈板ニ「一三」系ノ曳光突包ノ挿入シ置クヲ可トス</p>
<p>現制ニ在リテハ榴彈ニ對シ聯糸短延期名一ヲ携行セサルヘカラス從ツテ煩雜多岐ナルモノニ働信管ヲ以テスレハ兩者ニシテ兼ネシムルヲ以テナリ</p>	<p>交戦中ニ於ケル射彈観測ニ便ナルヲ以テナリ</p>
<p>九兵</p>	<p>歩七</p>
<p>九八式ニ働信管制定セラレル筈</p>	<p>研究中ナリ</p>
<p></p>	<p></p>

<p>化学戦闘資材 ノ 特種霰煙筒ハ 携行ニ便ナルモノ 改正ヲ要ス</p>	<p>ハハ式短延期信管 ヲ以テスル歩兵砲射 撃ニ於テ不糸ト観測 セラルルモノ多シ性能 際査ニ就キ研究ヲ 要ス 尚歩兵戦闘ニ於テハ 短延期信管ヲ要ス ル機少キヲ以テ支 給率ヲ減少スルヲ要ス</p>	<p>事 項</p>
<p>現制式品ハ其ノ形状ノ重量 共大ニシテ徒歩兵ノ携行 ニ適セス</p>	<p>射砲其他ニ十分留意シ 射撃ヲ行フモ尚不糸ト 観測セラルルモノ多ク所 望ノ效果ヲ收メ得ス</p>	<p>提 案 理 由</p>
<p>歩 七</p>	<p>歩 七</p>	<p>提 案 箇 所</p>
<p>第一第三第三項 研究スヘシ</p>	<p>承 り 置 け</p>	<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置</p>
	<p>某期間ノ製品ノ ミニ於テ不糸ト不糸 観測ヲ爲セリト 恐ラク観測ノ困難 ニ依ルモノナラン</p>	<p>摘 要</p>

<p>円形黄色薬ヲ繼 目ナシトセラレ度</p>	<p>2. 化学戦闘器 材ヲ駄載携行ス ル器具箱ヲ制定 スルヲ要ス</p> <p>3. 擲彈筒ニテ發 射シ得ル特殊 資材ヲ制定スル ヲ要ス</p>
<p>携行運搬装置著等ニ於テ 現制ノモノハ繼目ヨリノ折損 多ク爆破作業上支障多シ</p>	<p>駄載携行スル器具箱ナキ 爲木箱ニ梱包携行スルノ止 ムナキ状態ニシテ実戰的 ナラス</p> <p>手技ノミニテハ所望ノ效果 ヲ收メ得ス</p>
<p>エ</p>	
<p>九 九七式制定セラレタリ</p>	

其ノ一 制式ニ關スル事項 (銃器及刀劍類)

事項	提案理由	提案算	技術本部意見及措置	摘要
三八式歩兵銃 ノ口径増大ヲ可 トス  照準機ノ改正 ヲ要ス	彈丸威力ノ増大ヲ図ル 為メ機關銃彈ト同一使 用ヲ顧慮シ七・七口径 トナスヲ有利トス  近戰ノ結果ニ依リハ歩 兵ノ近接戰ニ於ケル射擊 ノ重視セラルルヲ思フト * 現在ノ如キ三百ヨリ照 尺ニテハ精度良好ナラス 續テ百ヨリ五十米度 ニ應スル照尺度トナスヲ 要ス 照準機ハ為シ得 ル限り眼鏡付ニシテ迅速 ナル敵發見ト迅速正確	步三五	第一項 九九式トシテ七・七 ノモノヲ制定手續中 ナリ  第二項 九九式ハ百米ヨリ使 用シ得ル如ク改メテ レアリ  又眼鏡ハ九九式狙擊 銃ニ適用ス一級小銃 ニハ眼鏡ヲ採用セズ	

序 項	提 案 理 由	提 案 算 算	技 術 本 部 意 見 又 ハ 答 復	摘 要
<p>3 銃口蓋ヲ整齊 ニ修正スルヲ要 ス</p> <p>4 油 庫 ハ 二 ト シ 内 一 練 脂 器 様 ノ モ ノ ト シ 後 盒 ノ 両 側 ニ 裝 精 シ 且 練 脂 器 ニ ハ 塗 油 紐 ヲ 收 入 ス ル ヲ 要 ス</p>	<p>ナレ照準ヲ為シ得ルヲ 要スレハナリ</p> <p>現制式品ハ薄弱ニシテ 裝著法亦安敵的行動 ニ適セス毀損落失スルモ ノ多ク補給十分ナラス</p> <p>現制品ハ一箇ニシテ一 會戰ニ數度ノ補給ヲ必 要トス</p> <p>然レニ戰場ニ於テハ補給 ハ再滑ヲサリシテ常 態トセリ</p>	<p>步七</p> <p>九 兵</p> <p>步七</p>	<p>第三項 改正済ナリ</p> <p>第四項 根本対策ニ付目 下研究中ナリ</p> <p>第五項 研究スヘシ</p>	<p>部隊ニ於テハ 代用品ニテモ可 ナル故潤滑ニ支 給ヲ希望セリ</p>
<p>5 挿 彈 子 ば ね ヲ ス テ ン レ ス</p>	<p>挿彈子發精ノ為彈藥 ヲ毀損セシムルコト多ク</p>	<p>步一九</p>	<p>第五項 研究スヘシ</p>	

<p>ク 床尾板ヲ左        四(略ス)ノ如ク        改正スルヲ要ス</p>	<p>レハナリ        今次歸還彈藥檢査ノ        半数ハ右揮彈子發錆ニ        基因ス</p>
<p>ハ 屬品中補足        榑杖「<sup>二</sup>」<sup>一</sup>ニ減        シ之ニ代フルニ重</p>	<p>前著ヲ確實容易ナラ        シムル為 特ニ冬季防        寒具ヲ着用セル場合ニ        於テ然リトス</p>
<p>歩一丸</p>	<p>歩三五</p>
<p>第八項        研究スヘシ</p>	<p>第六項        九九式ニハ改メラレ        アリ</p>
<p>第七項        九九式ハ概テ類似        ノ如ク改正シアリ        三八式ノ改造ハ研究ス</p>	

<p>狙撃用眼鏡付 小銃制定セラレ度</p>	<p>四四式騎銃 ノ銃剣ノ剣先 ヲ更ニ刺突ニ便 ナル如クセラレ度 ス 銃口蓋ヲ前 輕易ニシヨ夜間 ト雖モ明瞭ニセ ラレ度</p>	<p>鍾式塗油紐ヲ 増加スルヲ要ス</p>	<p>事 項</p>
<p>狙撃ニ於テ現制小銃ニ テハ不十分ナリ</p>	<p>厚×被服ヲ著用セル 敵ニ対シ刺突困難ナリ</p>	<p>熱ニ先ンシ聯時ヲ利用 シテ行フ手ハニハ撥杖ヨ リ重鍾式塗油紐ノ方遙 カニ便ナリ</p>	<p>根 拠 理 由</p>
<p>歩三五</p>	<p>騎九</p>	<p>歩一九</p>	<p>提 案 箇 所</p>
<p>希望ノ如ク九七式狙 撃銃制定セラレタリ</p>	<p>第一、二項 既ニ改正済ナリ</p>		<p>技 術 本 部 意 見 不 合 置</p>
			<p>摘 要</p>

<p>各種機関銃 ノ撃込抽筒子 付板ノ金製改 良ト經始ノ變 更ヲ要ス</p>	<p>各種銃ノ末尾ヲ 「空ラレミン」製トナ シ重要ナル豫備 品、手入具ヲ銃床 尾部ニ收入スル如 ク改造セラレ度</p>
<p>折損甚ク多ク且之カ 補給ハ困難ナラス</p>	<p>亡失防止 即チ戰場ニ於テ使用及 手入等ニ於テ十分ナル 威カヲ發揮センカ爲ニハ 予備品、手入具油等ヲ 常ニ携行シアルヲ要ス ルモ現況ニ於テハ亡失ス ルモノ多ク 適時使用セラレサル為 ナリ</p>
<p>九 兵 歩三五</p>	<p>九 兵 歩一九</p>
<p>第一項 改正済ナリ 尚適合検査ヲ十分ニ セラレ度当方ニ於テ モ尚研究スヘシ</p>	<p>趣旨ニ基キ研究ス ヘキモ統カ上及製造 上実施困難ナリ</p>
<p>改正済ノモノカ 折損スト云フ</p>	



事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見又は処置	摘要
<p>予備品中撃 茎、抽筒子ばね ノ首数ヲ増加セ ラレ度</p>	<p>折損スルモノ多クモ補 給十分ナラス本部品増加 ノ為爾余ノ予備品ヲ欠 クモ可ナリ</p>	<p>歩七</p>	<p>第二項 予備品ノ首数ニ関シ テハ研究中ナリ 金費経始ニ就テハ該 ニ改正済ナリ</p>	<p>内子ト撃茎ノ 擦合セ不良ニヨル モノト認め 本故障ハ改正前 ノモノナリ</p>
<p>3 分解結合ニ極 又ハ栓抜等特種 ノ工具ヲ要セル 如ク駐栓、内子 等ノ経始ヲ改正 スレヲ要ス</p>	<p>戦闘間此種工具ノ入手 困難ニシテ 戦機ヲ逸スル虞アリ</p>	<p>九 六</p>	<p>第三項 研究スヘシ</p>	<p>部隊意見ハ重 機ハ一本トスルヲ 可トシ輕機ハ不 用ナリトノ意嚮 多シ</p>
<p>4 機関銃ノ予備 銃身ハ各号「ト」シ 必要ニ應シ後脚ノ 内部ニ收容シ得ハ ク改正シテ隊隊</p>	<p>予備銃身ハ戦闘間 頻繁ニ交換ヲ要スヘキモ ノニアラス 口 駄馬ノ減耗等ニ依リ 遺留亡失スルモノ多シ</p>	<p>九 六</p>	<p>第四項 研究中ナリ</p>	<p>部隊意見ハ重 機ハ一本トスルヲ 可トシ輕機ハ不 用ナリトノ意嚮 多シ</p>

五〇

<p>小行李ニ銃身          三四(輕機ニ於テ          銃数ノ半數)ヲ          携行スル如ク改          正スルヲ要ス</p> <p>5 輕機閉銃ヲ備          銃身ハ各銃ニ附          屬セシムルコト          ナク別ニ一隊毎          ニ(要スレハ聯隊ニ          於テ)取纏メ携          行スルヲ可トス</p> <p>6 重機閉銃ノ器          具箱ノ收入岳岳          目ニ關シ研究ヲ          要ス</p>	<p>ハ 包布ニテ包ミタル          儘携行シ使用セズシテ          外部ニ大ナル腐蝕ヲ          生起セルモノ多ク其          情ナリ</p> <p>戰術中銃身ノ交換ヲ突          施スルノ要ヲ感シクレイトナ          キノミナラス本銃身ヲ常          ニ銃側ニ携行シオクト          困難ナルヲ以テ聯隊ニ於テ若          干ヲ行李ノ馱馬等ニ携行セ          シメ置クヲ可トス</p> <p>戰術上利用價值少キモ          ノ多シ</p>	<p>九          兵</p>	<p>步          七</p>	<p>九          兵</p>
<p>第五項          九九式ニテハ意見ノ          通改正済ナリ          其ノ他研究中</p> <p>第六項          研究スヘシ</p>				
<p> </p>				

<p>十一号式輕機 関銃 ノ口径増大ヲ 可トス</p>	<p>トス ニ改造スルヲ可 コ式(伸縮自在 ノ構造ヲ「千エツ ノ輕機関銃ノ脚</p>	<p>ノ輕機関銃三脚 架ヲ輕易ナルモ ノニ改正ヲ要ス</p>	<p>前述べセシ小銃ト同様 七七銃制ヲ採用スルヲ 可トス</p>	<p>ヲ要ス 輕重且簡易ナルモノニ改正 ヲ要ス 脚ノ高低自在ナラサル ニ依リ銃手ノ死傷極メ テ多シ</p>	<p>携行不便ナルヲ以テ實 戰的價値ヲ認ムス 輕重且簡易ナルモノニ改正 ヲ要ス</p>	<p>步三五</p>	<p>九 兵</p>	<p>步七</p>	<p>第一項 九九式トシテ制 定セリ</p>	<p>第八項 承リ置ク</p>	<p>第七項 輕易ナルモノニ付研 究中ナリ</p>	<p>摘 要</p>
---	--	--	--	---	---	------------	----------------	-----------	--------------------------------	---------------------	-----------------------------------	----------------

五

<p>十二年式輕機関 銃ヲ速カニ輕量 且故障(特ニ降雨 或ハ異物介入ニ依 ル送彈ニ關ス</p>	<p>ス照準機ノ改正 ヲ要ス 3 構造及送彈 裝置ノ改正</p>
<p>戰場ニ於ケル目標ハ 射撃場ノ目標ノ如ク 正確明瞭ナラス故ニ射 彈ヲ目標ニ集結セシムル ヲ要スルヨリ寧ク迅速</p>	<p>前述セシ小銃ト同様 改正スルヲ可トス 輕肩ナル運動ト迅速 ナル彈地占領トニ有利 ナラシムヘク重量ノ輕 減ト手携式携行ニ構 造ヲ変更スルヲ可トス 送彈裝置ハ塵砂介入 ヲ予防スル爲保彈板 式(キエツコ)式ニナスヲ 可トス</p>
<p>步三五</p>	
<p>意見承リ置ク</p>	<p>第二項 九九式輕機ニハ眼 鏡附トセリ 第三項 九九式九九式ニテ 実施セリ 但シ彈倉式トス</p>
<p>改修前ノモノナ ルハシ</p>	

<p>事項</p>	<p>ル故障)少兵 器ニ改正スルヲ 要ス</p>	<p>九二式重機関銃 ノ 脚駐檢部ノ 經始並ニ構等 改正スルヲ要ス 又 搬送用トシテ 担紐ニヲ附スル ヲ可トス</p>
<p>提案理由</p>	<p>ニシテ思故障多故障 ヲ以テ自標ヲ敵ヲ之ノ 能ク敵ニ對シ射撃的差 別ヲ獲得シ得以上ノ見 地ヨリシテ十一年式輕 機関銃ハ速カニ支那軍 常用ノチエソエ式輕 機化スルヲ緊要トス</p>	<p>駐檢部ノ廢損ニ依リ 前後脚ノ動振ヲ系ス コト屢々ナリ 戰場ニ於テハ臂ヲ搬送 ヲ常トスルヲ以テナリ</p>
<p>提案箇所</p>	<p>步三五</p>	<p>九 兵</p>
<p>技術本部意見又設置</p>		<p>第一、二項 研究スヘシ</p>
<p>摘要</p>		<p>一會戰ニテ動振 甚クシニ至ルト云 フ</p>

<p>4 機関銃ノ銃 口ニ輕機ト同様 銃口蓋ヲ附ス ヲ可トス</p>	<p>3 機関銃後根 ヲ其ノ儘機關 銃用油槽ト夫 如ク研究セラ レ度 (四面略)</p>
	<p>戰地ニ於テ長期「スピ ンドル」油ノ欠乏補給難 油罐ノ破壊等苦シキ經 験ヲ嘗メタリ 又戰前前後根ハ殆ド 使用セズ馱載ノ儘ナルニ ト多シ戰前前後根 載ニハ悉ク「スピンドル」 油ヲ收容セル分捕リ水 筒瓶等ヲ積載セリ右 ノ如ク戰場ニ於テ油ヲ 常ニ携行スル為一案ト 思考ス</p>
<p>步三五</p>	<p>步一九</p>
<p>第四項 研究スヘシ</p>	<p>第三項 研究スヘシ</p>

<p>事 項</p>	<p>ケ 裝填口改正 スルノ要アリ</p>
<p>提 案 理 由</p>	<p>上海附近ノ体験ニ依 レハ兩期ノ場合彈藥 裝填發射中ヨリ寮室 附着ノ故障ヲ生起セリ 之ヲ予防法トシテ裝 填口上部ニ保彈板ハ ノ薄キ鉄板ヲ以テ兩 層ヲ附着スルヲ可トス</p>
<p>提案箇所</p>	<p>九 兵 七 歩</p>
<p>技術本部意見又ハ位置</p>	<p>第五項 研究スヘキモ困難 ナリ</p> <p>第六項 輕量ニスト件ハ改正 上甲濟(九六式) 恒シ潛望高ハナシ 潛望式トスト件ハ異 体酌ニ考慮シアラサ ルモ研究スヘシ</p>
<p>摘 要</p>	<p>觀練合せ未了 ノモノハ速カニ實 施シ置カシ度</p>

五三

<p>ク 眼鏡ハ直接照準ノミニ使用スル如ク筒目ナレモノヲ常時照準具ニ附著シテ如ク改正スルヲ可トス</p>	<p>八九式重擲彈筒 ノ 八九式重擲彈筒ニ四十五度ノ射角装置ヲ附與スルヲ要ス ズ 整度器ヲ整確ナルモノニ改正</p>
	<p>戰場ノ複雑ナル地形ニ於テハ確實ナル射角ノ判定ハ困難ナリ依テ射角附與ノ水準器等ヲ耐スル如クセラレ度 現制品ハ落失スルコト多ク実戦的ナラス</p>
<p>歩三五</p>	<p>九兵 歩一九 歩七</p>
<p>第七項 九六式ト称スルモノヲ以テ茲当シ得ヘシ (携行用ハ離散シ射撃向ハ裝着ス)</p>	<p>第一項 研察済ニシテ近ク制長ノモノニハ裝着セラレアリ 現制式ハ改修セズ 第二項 現制品ニテハ改修</p>
<p>現在ノ眼鏡程度ノ大サナリ</p>	



<p>等 項</p>	<p>セラレ度          3 筒ニ附属ス          ル手入羽貝(油          罐共)ヲ制定          スルヲ要ス          4 携行ニ便ナル          滋桿頭ヲ制定          スルヲ要ス又          柄桿内ニ砂塵          ノ浸入ヲ防止ス          ルノ処置ヲ講ス          ルヲ要ス          5 各種新彈筒          撃針ノ金質ヲ</p>
<p>提案 理 由</p>	<p>戰場ニ於ケル手入ニ不          便多シ          多数彈ヲ發射シ火藥          ガスノ為彈藥ノ裝填          不能又筒底ニ塵渣溜          リ不發ノ原因トナルコ          ト屢々アリ          現制岳ハ戰前尙舊態          瘦肉シ折損スルト屢々</p>
<p>提案箇所</p>	<p>歩          七          九          八          九          八</p>
<p>技術本部意見不処置</p>	<p>困難ナリ          第三項          予備貯箱ニ收容携          行スル如ク制式改          正セラル、筈          第四項          滋桿頭ハ制定セザ          ル意図ナリ應用材          料ニ依ラレ度          防塵法ニハ改良ナ          シ部隊ニテ現地ニ適          スルモノヲ利用セラレ          度          第五項          研究スヘキモノ予備</p>
<p>摘 要</p>	<p></p>

<p>8 筒基部ノ附 並ニ筒單ナル側 角器(水準器) ヲ裝著スルヲ 要ス</p>	<p>7 筒口ニ蓋又 ハ覆ヲ取付ク ルヲ要ス</p>	<p>6 重擲彈筒ニ 頁筆ヲ附スル ヲ要ス</p>	<p>良好ニシ且更 ニ太ク經始シ 以テ強度ヲ増 加スルヲ要ス</p>
<p>射撃角度(水平)ヲ射 手自ラ容易ニ点檢シ 得ルニ快ス</p>	<p>防塵ノ爲</p>	<p>戰陣前部隊ハ常ニ輕 裝ニシテ背囊等ヲ用 ヒス隨テ背囊ニ裝 著ノ現制品ハ實戰的 ナラス</p>	<p>ナリ</p>
<p>歩一丸</p>	<p>騎丸</p>	<p>丸 兵</p>	
<p>第八項 新擲彈筒ニ於テ45° ヲ示ス裝置ヲ附スル 如クセリ</p>	<p>第七項 第四項ニ同シ</p>	<p>第六項 改正セラレ不日發 布ノ筈</p>	<p>岳ヲ増加シテ之ヲ補 ヒ度意見ナリ</p>

<p>三十二年式軍刀 輕ヲ塗裝スルヲ</p>	<p>二十六年式 拳銃 彈藥ノ機能ヲ 良好ナラシムル 如ク改修セラレ 度</p>	<p>ハ九式重擲 彈筒屬品中 特ニ駐環ノ補 給或ハ屬品中 ノ定數増加セ ラレ度</p>	<p>事項</p>
<p>金屬素地部ノ儘ナル ハ莫戰的ナラス</p>	<p>彈藥回數セサセノアリ 不發多ク信賴度 少キニヨル</p>	<p>落失毀損多キヲ 以テナリ</p>	<p>提案理由</p>
<p>歩七</p>	<p>山砲九</p>	<p>歩三五</p>	<p>提案箇所</p>
<p>研究中ナリ 逐次九五式ヲ支給セ</p>	<p>逐次十四年式三枚 ムラレル予定ナリ 其ノ間ハ取扱法ヲ十分 徹底セラレ度 不取取應急復旧 ニ努メラレ度</p>	<p>第九項 予備品ヲ增加ス ル如クス</p>	<p>技術本部意見不置</p>
	<p>当師團ノ裝 備ハ全部三夫 年式ナリ</p>		<p>摘 要</p>

<p>要ス 鏝、銜等ニ於テ モ然リトス</p>	<p>九五式軍刀ニ指 拔ヲ附セラレ度</p>	<p>彈藥盒 ノ 彈藥盒及彈 藥帶ハ改正セラ レ度 又 彈藥盒後 盒ノ兩側ニ油畫 駐筆ヲ設ケ携 行油量ヲ増加 スルヲ要ス</p>
		<p>彈藥盒ハ小ニ過キ實用 ニ適セス 彈藥帶ハ損傷シ易 キヲ以テナリ 戰場ニ於ケル手入材 料ノ補給十分ナラサル ニ鑑ミ携行量ヲ増加 スル為</p>
<p>歩七</p>	<p>騎九</p>	<p>歩一九</p>
<p>ラレツ、アリ</p>	<p>承リ置ク</p>	<p>第一項 改正済ナリ 第二項 根本的対策ニ 付目下研究中 ナリ</p>

	<p>3 小銃彈藥盒 ヲ輕機ノ如ク麻 製トスルヲ可 トセン</p>	<p>事 項</p>
	<p>資源節約ト保存上大 差ナキニヨル</p>	<p>提 案 理 由</p>
	<p>步 三 六</p>	<p>提 案 算</p>
	<p>第三項 該ニ代用品ヲ充 当シアリ</p>	<p>技 術 本 部 意 見 不 同 置 留</p>
		<p>摘 要</p>

其ノ一 制式ニ関スル事項（器材関係）

事項	項提案理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘要
精密器材收入用器具箱ニ防水（防湿）及防振（緩衝）装置ヲ設ケラレ度	現制收入箱類ニテハ運搬行動向毀損或ハ故障ヲ生スルコト多ク精密器材ノ保存上支障アリ		研究スヘシ	
火焰発射機ノ具裝置及發射装置ニ確實性ヲ附與シ併せて重量ヲ軽減セラレ度	敵火ノ中ニ在リテ機ノ全能力及機手ノ全能力ヲ發揮シ難キ状況ナリシヲ以テナリ	工九	九三式ハ火焰發射機ハ制式改正セラレ具火及發射機能良好ナリ	提出意見ハ改良型ナラサルモノニ対スル意見ナリ
尙ガス圧ニヨラサル火焰發射機ヲ創造セラレ度	戦地ニテハ圧縮ガスノ補給困難ナリシニ依ル		圧縮空気ニ依ル如ク且火焰發射機用空気圧縮機ヲ制定セリ	

五七

<p>事</p>	<p>鉄板爪部先端ニ 別図ノ如キ釘板 ヲ設ケラレ度  (別図形式略)</p>	<p>項 提 案 理 由</p>	<p>建築、架橋作業等ニ於テ 釘板ノ必要多クハナリ</p>	<p>提案箇所</p>	<p>九</p>	<p>技術本部意見不処置</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>摘 要</p>	<p>携帯内匙柄ハ所要 ニ應シ短柄スル(縮 メル)如ク創造セラ レ度  近接戦闘ニ於テハ柄ノ長キハ 作業上支障多ク一敏ニハ現エ 在ノ通ニテ使用シ必要ノ場 合ニ短クシ得ル如キ柄ニセラ レ度  又依隘峻険ナル山地等通 過時柄長キ為障碑トナリ 通過シ得サルコトアリ</p> <p>研究スヘシ</p>
----------	--	----------------------------------	-----------------------------------	-------------	----------	------------------	--------------	----------------	--

<p>九三式夜光羅針ハ 更ニ本体ヲ小シ腕 革ノ強度ヲ増加ス ルヲ要ス</p>	<p>近接戦闘ニ於ケル 小量爆薬ノ携行 運搬具ヲ制定セ ラレ度</p>	<p>鉄條鉄ハ電流鉄 條網ニ対シテモ其 ママ(無防護ニテ) 使用シ得ル如クセラ レ度</p>
<p>亡失スルモノ多ク 突戰的ナラス</p>	<p>近接戦闘陣内戰其陣 ニ於テ上述運搬具ナキ爲 木箱筵、木綿布等ニ收容 携行セル戦闘行動ヲ阻害 スルコト多シ 制定ヲ望ム</p>	<p>將來戰ニ於テハ電流鉄條 網ニ遭遇スルコト多キモ 現制ニテハ防電具革ヲ裝 セサレハ鉄斷不可能ニ付 柄ヲ絶縁性トスル如クセハ 可能トナルヘキニヨル</p>
<p>歩 七</p>	<p>九 兵</p>	<p>エ 九</p>
<p>取扱容易ト夜間使用自 地ヨリ現制ニテ差支ナ キ意見ナリ 但シ成ルヘク輕量小型ナ ル如ク九八式トシテ改正セ リ</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>研究中ナリ</p>
<p>部隊意見ハ九三式 夜光羅針ノ代用ト シテ允當セラレタ ル旧式品ニ対スル 意見ナリ</p>		



事 項	提 案 理 由	提 案 箇 所	技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置	摘 要
<p>工兵中隊携帶器 材中二十米巻尺ニ ハ属品袋十キモ十 米巻尺同様ニ制定 スルヲ要ス</p>	<p>携帶ニ支障アリ</p>	<p>九 兵</p>	<p>附スル如クスヘシ</p>	
<p>九七式小田匙ハ 現制小田匙大ノモ ノト爲スヲ要ス</p>	<p>現制式ハ其效用ヲ大ナラ シムル爲小田匙ニ比シ大 ルニ伴ヒ重量ノ増加ヲ来シ 步兵ノ携行ニ不便ナリ</p>	<p>步 七</p>	<p>九七式小田匙ノ自的 上 此ムヲ得ス改正ノ意 図 ナシ</p>	<p>尙歩兵隊ニ於テ今 次事要固防箱ト シテ使用セル戦例 ナシト</p>
<p>補給用乾電池ノ 收入箱ヲ制定セラ レ度</p>	<p>裸ニテ運搬シ補給中不 良品トナルヲ以テ運搬途 中ノ防湿ヲ十分ニスル爲</p>	<p>九 兵</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>「ナシヨナル」乾電池 ナリシカ其ノ内子 ハ不良品ナリシト</p>

<p>隊号布板等ノ收入 囊ヲ制定セラレ度 殊ニ高革司今部 ノモノハ乘馬シテ携 行スル如ク制定スル ヲ可トス</p>	<p>九二式電話機 ノ送受話機用 閉器ノ接触ヲ常 ニ良好ニ保持シ 得ル如ク改正ヲ 要ス</p>	
<p>2 糸電機大齒 輪軸駐子ハ尚 堅牢ナラシメラレ 度</p>	<p>閉器ノ接触不良ヲ生スル モノ多ク數箇向ニ於ケル 通信連絡ニ支障ヲ感セシ コト勘カラス</p>	
<p>長時日使用ニヨリ屈曲折 損スルモノ勘カラス 特ニ長 距離線利用ノ場合ニ多シ</p>	<p>師 通 步 七 步 三五 步 一九 步 三六</p>	<p>九 兵</p>
<p>步 三五</p>	<p>第一第二項 改正済ナリ 機ヲ見テ制式改正ニ差 出サレ度</p>	<p>研究スヘシ</p>
	<p>部隊使用ノモノハ 改修前ノモノナリ</p>	<p>師団ニテ考察 実施中ナリト</p>

事項	項目	通信器具箱	九四式五号無線機
九三式電燈電話機 機能不十分(送話、 聴取困難)ナリ研 究改善セラレ度	作戦間保線用トシテ使用 セルモ十分実用ニ供シ得サ リキ 尚本機ハ動員ニ当リ始メテ 支給セラレタルモノナリ	通信器具箱 止板ヲ堅牢ニ改正 ヲ要ス	電源ニ就テ 心線電源ノ故 障ヲ少ク如ク セラレ度
提案理由	構造機能共ニ優劣ナレモ送 信機ニ比シ受信機ノ故障比較 的多ク殊ニ心線電源ニ多シ 出動間心線電源ニボルトヲ 使用シ良好ナリキ	薄弱ニシテ破損セルモノ 殆ント全数ナリ	構造機能共ニ優劣ナレモ送 信機ニ比シ受信機ノ故障比較 的多ク殊ニ心線電源ニ多シ 出動間心線電源ニボルトヲ 使用シ良好ナリキ
提案箇所	技術本部意見スハ処置	研究スヘシ	第一項 心線電源ニ依リ故障トハ 乾電池ノ電圧低下ノ意ナリキ 本無線機ノ受信機ハ心線 電圧二ボルト以下ニテ使用 スルモノニシテ三ボルトニテ 使用スルハ不可ニシテ故障
摘要	尚本機ハ動員ニ当リ始メテ 支給セラレタルモノナリ	研究スヘシ	第一項 心線電源ニ依リ故障トハ 乾電池ノ電圧低下ノ意ナリキ 本無線機ノ受信機ハ心線 電圧二ボルト以下ニテ使用 スルモノニシテ三ボルトニテ 使用スルハ不可ニシテ故障

五九

<p>2. 電話ニ就テ 平時ハ相当実用 センモ戰時ハ片 通話式ナレテ以テ 実用化サレヌ通 話ヲ自由ナラシ メラレ度</p>	<p>片通話ナルヲ以テ繁忙ヲ極 ムル戰場ニテハ僅少ナル欠陥 ニ対シテモ影響大ニシテ 殊ニ遠距離ニ対シテハ実用 セラレサリキ</p>
<p>步 一 九</p>	
<p>第三項 音響管減少ニ就テハ研究中 ナリ</p>	<p>ヲ生スルハ当然ナリ 取扱ニ注意セラレ度</p> <p>第二項 本無線機ニ依ル電話ハ通 遠距離ニ限度(十軒)アリ 遠距離ヲ望ムハ過望ナリ 片通話法ニテモ通話法 宜シキヲ得ハ実用シ得ヘシ 又送信機受信機ヲ分離シ テ受信機ニ臨附應用空 中線ヲ使用セハ同時通話 可能ナリ</p> <p>而通話式トナスハ現制機 ノ改修ハ困難ナルモ刷新 機ニ於テ研究中ナリ</p>
<p>3. 送信電源ニ就テ 發電器ノ回転 音ヲ小ナル如ク セラレ度</p>	<p>駐屯警備等ニテハ發電機 ヲ使用スルヲ最可トスルモ 敵前ニ於テ殊ニ夜間ニアリ</p>

事項	
<p>為シ得レハ送信 電源モ乾電池 ヲ用フル如クセラ レ度</p>	<p>々送受信機體ノ 上方部ヲ用閉 シ得ル如クセラレ 度</p>
<p>提案理由</p>	<p>テハ糸電機同転音ノ為 敵ノ射撃ヲウケヌハ逆襲セ ラレル等妨害ヲウケタル例 多シ</p>
<p>提案箇所</p>	<p>現制品ハ金屬製ニテ堅牢 ナルモ敵彈下第一線ニ於テ 臂力搬送中地物ニ激突ス ルコト擲カラス又敵彈ノ為打 痕ヲ生シタル場合等ニ於テ 本体ヲ輕ヨリ脱スルコト能 ハス折角ノ良機ヲ使用シ得 ス或ハ輕ノ上部ヲ破壊シテ修 理ヲ行ハサレヘカヲサレ等ノコ トアリシヲ以テナリ</p>
<p>技術本部意見又ハ処置</p>	<p>尚乾電池使用ニ就テモ 研究中</p> <p>第四項 研究スヘシ</p>
<p>摘要</p>	

六〇

<p>九四式三号無線機 ノ部品ハ三号四号 五号機ヲ成レ可ク 統一スルヲ要ス</p>	<p>九四式三号無線機 ニアリテモ介担携 行スルヲ本則トシ 要スレハ通信機箱 ニ入レタル儘通信シ 得ル如ク匡ヲ改正ス ルヲ要ス</p>
<p>修理及部品補給上有利 ナリ 殊ニ抵抗器、蓄電器ニ於 テ然リ</p>	
<p>師 通</p>	
<p>無線機ノ部品統一ニ関 シテハ不断研究中ナリ</p>	<p>「分担携行ヲ本則トシハ 承リ置ク 現制機モ分担携行シ得 ル如クナシアルモ更ニ通 信機ヲ送信機、受信機 ニ分離シ携行容易ナル 如ク改正中 又通信機箱ニ入レタル儘 通信シ得</p>

事項	項 目	提 案 所	技 術 本 部 意 見	摘 要
<p>九二式小線巻匡軸 頭駐爪部ハ軸ノ 駐定ヲ確實ナラシ ムル如ク改善セラレ 度</p>	<p>現制品ハ駐爪過小ニシテ 磨滅度早ク離脱シ易シ 又軸止糸條弱ク駐定不 確實トナリ抽脱シ易シ</p>	<p>師 通 步 一 步 七 步 三六</p>	<p>九二式小線巻匡ニ就テハ 改善方研究中ナリ 不日改善セラルヘシ</p>	
<p>絡車撰子 左図(略)ノ如ク 拵子環ノ如キモノヲ 取附ケ機能ヲ良 好ニセラレ度</p>	<p>現制品ニ於テハ運搬中 離脱スルコト多シ</p>	<p>步 一 步 九</p>	<p>研 究 ス ヘ シ</p>	
<p>鉄線鉄ノ金質 ヲ改良セラレ度</p>	<p>使用ニ当リ磨滅多ク 使用上不可ナリ</p>	<p>師 通</p>	<p>改 正 中 ナ リ</p>	

<p>使途多キ單位 兵器ヲ制定セラ レ度</p>	<p>観測器材 電話機ノ副送受 話機ヲ必要トス</p>	<p>電柱昇柱器制式 兵器トシテ制定 セラレ度</p>
<p>所謂ヒツ道具式ノ 切ル、打ツ、鉋、板ノ四機 能ヲ有スルモノヲ希望ス 兵力ヲ分散スル時ハ現在ノ 個人裝備ニテハ尙ニ合ハス作</p>	<p>雨雪天等ニ於テ使用不便 且豫備ヲ必要トスル爲</p>	<p>既設線ノ利用其ノ他ニ於テ 地方電柱等ヲ利用スルコト 多ク本器ノ必要ヲ痛感ス</p>
<p>工 九</p>	<p>山砲 九</p>	<p>歩 三六</p>
<p>研究スヘシ</p>	<p>新シキ観測器材ハ凡テ 九ニ式電話機トナル</p>	<p>制式器材一号、二号昇柱器 ヲ目下改正中 近ク九九式昇柱器トシテ 制定セラルル筈</p>
<p></p>	<p>本意見ハ十一年式 観測具ニ対スルモ ノニシテ九ニ式電 話機ナレハ可ナリト 云フ 現在隊ニ右ノモノ 一ツモナシト</p>	<p></p>



0230

	<p>兼能率ヲ高ムル為必要 ナリ</p>	<p>提案箇所</p>	<p>技術本部意見スハ処置</p>	<p>摘要</p>
<p>権類ノおダ細目 ニ失スルモノ多シ 改正セラレ度</p>	<p>爆薬罐其他 一般ニおダ細目ニ失シ採用 ニ不便ナリ</p>	<p>エ 九</p>	<p>研究スヘシ</p>	

六

其ノ一 制式ニ関スル事項（輜重軍馬具類）

事 項	提 案 理 由	提 案 箇 所	技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置	摘 要
輜重車輛ノ轆木經 始ヨ改正シ強度ヲ増 加セラレ度 五年式輜重駄馬 具ノ甲乙區分ヲ廢 シ之ヲ甲ト同一部出 附スルヲ要ス （丙ヲ乙ニ改称ス） 輜重携行器具乙ハ 一組分ヲ箱又ハ挾布 等ニ收入スルヲ可トス 乘輓、駄馬具 各種乘馬具ノ野 繫勒ノ制式ヲ統 一スルヲ要ス	付ケ根ノ部分ヨリ折損スルモ 多シ 折損防止ノ為 戰場ニ於ケル駄載品ハ駄 鞍ノ甲乙ノ區分ニ應スルコト 少シ 部出ヲ亡失スルモノ多シ	九 兵 九 兵 七	改正研究中ナリ 研究スヘシ 研究スヘシ 第一項 研究スヘシ	馬具類統ニ關シテ ハ全般的研究中ナリ

<p>2、各種乘鞍、馬具          每三勒、制式ヲ統          一スルヲ要ス</p> <p>3、各種馬具、靴          靴ハ制式ヲ統一スルヲ          要ス</p> <p>4、各種馬具、腹          帶ハ五等式モト          シ、西側ニ托革ヲ附          シ、制式ヲ統一スルヲ          要ス</p> <p>5、各種鞍草類、種          類ハ約十種位ニ制          限スルヲ要ス</p> <p>6、馬具中、左、如ク改          正スルヲ希シ</p>	<p>事          項</p>
<p>頭給野繫勒ハ將校用、他ノモ          ト異リ、動員補給共困難ナリ</p>	<p>提          案          理          由</p>
<p>九          兵</p>	<p>提          案          箇          所</p>
<p>第九          兵</p> <p>第九          兵</p>	<p>技          術          本          部          意          見          又          ハ          処          置</p> <p>第三項          目下大小勒共通モノニ付          研究中ナリ</p> <p>第三項          統一スル如ク研究中ナリ</p> <p>第四項          研究スヘシ</p> <p>第五項          研究スヘシ</p> <p>第六項</p>
<p>第九          兵</p>	<p>摘          要</p>

<p>④大勲衛ト小勲衛 トナツニ合成ス ①馬糧官吏、衣袋 ハ同一型トナス ②蹄鉄囊、蹄釘 袋等ハ包メテ置 一ニナス</p>	<p>將校乘馬具 ①水囊ヲ附屬セシ ルヲ要ス ②野繫勒ニ銜ヲ附ル 如ク改正スルカスハ三十 年式乘馬具ト同一 制式ノモノニ改正スルヲ 要ス</p>
	<p>歩工兵隊ノ如ク騎馬傳令ヲ 有セサル部隊ニ於テ野戰ニ 於ケル馬匹管理ニ不便ナリ 頭絡ヲ破損スルコト多キヲ 以テナリ</p>
	<p>九 兵 七</p>
<p>① 研究中 ② 鞍馱馬ト乘馬用トニ 區分シ共通兵器トシテ 制定スミナリ ③ 同右</p>	<p>第一項 承リ置テ 第二項 研究中ナリ</p>

事項	案	理由	提案箇所
<p>了波囊、鞍囊、野 繫頭絡ハ三十手式 乘馬具ト同型又ハ 同容積モニ改正セ ラレ度</p>	<p>銃砲馬具 砲隊鏡、輕測遠機 高射用具等ヲ馬 載シ得ル如ク改正ヲ 要ス</p>	<p>現制式ニ在リテハ是等増加 裝備兵器ノ馬載區分ヲ定 メラアラサルヲ行動ニ不便ナリ</p>	<p>馬裝草條ヲ單ニスル</p>
<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置</p>	<p>騎 九 九</p>	<p>步 七</p>	<p>山 砲 九</p>
<p>第 三 項 改 正 ノ 意 図 ナ シ</p>	<p>研 究 ス ヘ シ 歩 兵 射 撃 指 揮 具 ニ 就 テ ハ 研 究 中 ナ リ</p>	<p>研 究 ス ヘ シ</p>	<p>研 究 ス ヘ シ</p>
<p>摘 要</p>			

六四

<p>職 工 具</p> <p>八 速カニ新定修理工 具ノ如キ新工具ヲ制 定セラレ度 殊ニ螺 範ノ如キモノニ於テ然リ ノアリ又工具ニ増加ヲ要スルモノ等 アルニ依ル</p>	<p>2 携行(帶)銃(鞍 工具共其收入品 其他ニ改正ヲ要ス</p> <p>3 野戰携行銃工具 中眞鉄ヲ入組スルヲ 要ス</p>	<p>現制式ノモノハ裝填品收入品中 利用價値薄キモノ又ハ殆ントナ キモノノ工具トシテ旧式ニ屬スルモ アルニ依ル</p>
<p>三十年式乘馬具乘 鞍ハ之ヲ分解シ易ク ヲ要ス 例ハ八鞍骨ノ革部ノ分 解ヲ容易ニ得ル如ク カハシ</p>	<p>騎坐革ト鞆革トノ連接革ノ破 綻ヲ生シタル時之ヲ修理ニ於テ 大ナル時間ト手數ヲ要スル等修 理実施ニ當リ現制ハ頗ル不利 ナリ</p>	<p>現制式品ハ野戰ニ於ケル修理ニ 不便ヲ感スル處 尠カラズ</p>
<p>九</p>	<p>九</p>	<p>九 兵</p>
<p>十四年式乘馬具制定セラレ タルヲ以テ 三十年式ハ改修ノ意図ナシ</p>	<p>第三項 改正セリ</p>	<p>第一項 根本的ニ研究中ナリ 將來改善セラルヘシ</p> <p>第二項 根本的ニ研究中ニシテ一 部ハ現ニ支給セララルヘシ</p>

<p>事 項</p>	<p>馱馬具ハ更ニ輕易ナ ルモノニ改正セラレ度</p>
<p>提 案 理 由</p>	<p>今次事変ニ於テ騎鞍重ク而 カモ徵發馬多ク爲馬背ノ鍛練 亦十分ナラス 參戰早々多數 ノ鞍傷馬ヲ出シ作戰行動ニ支障 ヲ生ゼシコト多シ</p>
<p>提 案 箇 所</p>	<p>輜 九</p>
<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置</p>	<p>九七式馱鞍輕馱鞍六目下 上申準備中ナリ 尙其他輕馱鞍ニ付研究 中ナリ</p>
<p>摘 要</p>	<p>上海上陸後旬日ヲ出 テマシテ約三分ノ一鞍 傷馬ヲ生セリト</p>

六五

其ノニ 採用検査ニ関スル事項

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見スル処置	摘要
銃器部品ニハ交換性ヲ附與スル如クセラレ度	交換性ナキ為戰場ニ應 <sup>於テ</sup> 急 <sup>ニ</sup> 修理使用上ニ支障アルヲ以テナリ	エ九	研究中ナリ 九九式ニ於テハ考慮セラレアリ	
輕機関銃部分品ハ更ニ適合ヲ良好ナラシムル如クセラレ度	大部分ハ角張りテ使用ニ耐ヘス戰場ニ於テ補填セラレシモノニ於テ特ニ支障多カリキ將來之カ適合ニ関シ留意ヲ望ム	騎九	研究スヘシ 尙關係箇所ニ連絡シ採用検査ニ注意セシムヘシ	
トヨダ自動貨車ノ採用検査ヲ工廠ニセラレ度	聯隊ニ支給セラレアルトモ貨車ハ特ニ差動機聯動機ニ故障多ク其ノ原因ハ該部ノ金質不良ニ歸スヘキモノ多キヲ以テナリ	輜九	關係箇所(自動車學校)ニ意見ヲ傳ヘオク	



<p>導火索防湿塗料ノ耐熱度ヲ増サレ度</p>	<p>著シク溶解ノタメ爆作業上支障ヲ生シタルコト多シ</p>	<p>工九</p>	<p>調査ニ採用検査ニ注意セシムヘシ 但シ新導火索研究中ニシテ近ク上申ノ予定アリ 研究中ノモノハ斯ル心配ナシ</p>	<p>事後後製造ノモノニ多シ夏季使用中雷管挿入不可能ノモノアリ</p>
<p>事項</p>	<p>提案理由</p>	<p>提案箇所</p>	<p>技術本部意見又ハ処置</p>	<p>摘要</p>

其ノ三 兵器ニ関スル諸規定ニ対スル事項

<p>事 項</p> <p>兵器業務規則 ノ演習用弾薬支給 定数表ヲ速カニ 発布セラレ度</p>	<p>提 案 理 由</p> <p>業務遂行上支障甚 カラス</p>	<p>提案箇所</p>	<p>技術本部意見ニ処置</p>	<p>摘 要</p>
<p>②演習用弾薬換 算表(其ノ一)ヲ 左ノ主旨ニ合致 スル如ク改正セラ レ度</p> <p>(イ) 突包、空包相 互間ノ交換ヲ認 メラレ度</p> <p>(ロ) 換算極限及信 管相立ノ交換 前シテ更ニ詳細ナル 備考ヲ附セラレ度</p>	<p>演習用弾薬ノ換算ハ同 種別区分内ニ限り実施 セラルルモ突包、空包相立 間ニ認メラレサルハ適當ナ ラス</p> <p>現在極限ハ代用弾ニ明示 シテリ又信管ハ瞬燃短延 期ノ明示シアルモ他ノモ ニモ詳細ニ明示スルヲ要ス</p>	<p>九 矢</p>	<p>第一二項 上司ニ報告ス</p>	

<p>事 項</p> <p>ヲ修理制限品並ニ非 制限品第一種新 調修理制限ヲ緩 和シ部隊ニ於テ適 宜実施シ得ル如ク 定ムルヲ要ス</p> <p>4、造兵廠修理差 出中ノ廢兵器下 決定シタルモノノ 履歷ハ注文部 隊ニ送附スル如 ク定メタルモ履 歷ノ保管ハ其ノ 兵器ノ主管中 ノミナルヲ以テ注 文部隊ニ送附ス ルノ要ナカルヘシ</p>	<p>提 案 理 由</p> <p>工廠修理差出並ニ支廠依 託依頼時ハ長期間ヲ要シ 之カ為軍隊教育ノ蒙ル 不便甚カラサルヲ以テナリ</p>	<p>提案箇所</p> <p>九 兵</p>	<p>技術本部意見ニ処置</p> <p>第三項 昭和十三年四月十九日 陸普第三五九号 「兵器業務規則第四十 條ノ適用実施ニ関スル 件」ニヨリ認可ヲ受ケ 実施セラレ度</p> <p>第四項 業務規則ニヨリ実施 セラレ度</p>	<p>摘 要</p> <p>陸軍省ニ於テ兵 器部ニ修理工場 ヲ逐次増設スル 意図ヲ有シアリ</p>
---	---	----------------------------	--	---

<p>兵器取扱法及説明書          主要部分ノ構造          要図等ヲ増加シ          且要図中構造          精緻ナル部分ハ          三色刷トモラレ度          又巻末ニ其ノ兵器          一組ニ対スル品目買          数表ヲ添付スル          加クセラレ度</p>	<p>大戦時兵器業務規          則ヲ制定シ野戦          部隊兵器業務          ノ準繩トナスヲ要ス</p>
<p>理解ヲ容易ナラシムル為          取扱者ノ整理ヲ容易ナ          ラシムル為</p>	<p>現在野戦ニ於ケル兵器業          務ハ全軍的ニ統制ナリ          軍務ノ整理業務ノ実行          上不便ノ点頗ル多シ殊ニ          配属セラルル軍又ハ師団ノ          異ナル毎ニ業務実施ノ要          領ニ差異アルハ甚クシク          困ル</p>
<p>九          兵</p>	
<p>第一項          努メテ意見ノ如ク編纂          ニ努メアリ          尚掛図トシテ配布シヤ          ルモノヲ利用セラレ度          第二項          現在実施シアリ</p>	<p>第五項          上同ニ於テモ研究中ナリ</p>
<p>本意見ハ旧モノ          ニ対スル意見ナリ</p>	

事 項	提 案 理 由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘 要
<p>3.戦地ニ於テ平時使 用シアル兵器ニ比シ 甚タシク旧式ノモ ノ又ハ新兵器ヲ支 給セラルル時ハ取扱 法又ハ説明書若 干ヲ同時ニ支給ス ル如クセラレ度</p>	<p>戦地ニ於テ新兵器又ハ甚 タシク旧式兵器ヲ支給セラ ルルモ取扱法不明ニ付因却 スル場合多シ</p>	<p>昭和十一年育兵秘第百八号</p>	<p>第三項 趣旨ヲ上司ニ進達 スヘシ</p>	
<p>彈藥取扱細則 ノ第三章貯藏ノ各 條中新ニ突包庫 ニ關スル所要條 項ノ追加ヲ要ス</p>	<p>昭和十一年育兵秘第百八号 ニ依リ新築セラレタル突包 庫ニ關シテハ未ダ詳細所 定ノ條項ナキニ付</p>	<p>九 兵</p>	<p>第一項 細則改正審議中ニ付 ソノ際記述スヘシ</p>	

<p>又第四三條ニ左記事項ヲ追加ス可トス      彈藥筒調製ニ當リテハ完成彈ノ彈帶下方円持部ニ附テ表第ニニ掲ケル黒クシテ塗抹シ藥筒内ヲ入シ止ムヲ得ザル場合ノ外晝夜靜置スヘシ</p>	<p>昭和十二年七月又第五三號ニ依ル彈藥ニ關スル一般注意事項中藥筒ノ離脱並ニ彈軸變移ヲ防止スル対策ヲ規定化スルヲ可トス</p>
<p>3. 完成彈(信管附)運搬ノ範圍中左記事項ヲ加味シ其ノ制限ヲ緩除ナラシムルヲ要ス      彈細第百四七條第一項ノ「軍隊ニ於テ彈藥箱又ハ彈藥單等ノ兵器ニ規定ノ如ク收納シ携行スル場合」條項以外ニ運搬用素箱ヲ用フル場合ニテモ同條ヲ準據セシムル尚携行スル場合ト限定セズ一般輸送ニモ適用セシム</p>	<p>昭和十二年五月本輪又第八三〇号ニ依リ改正セラレタル彈藥運搬箱ニテハ彈頭信管ト虽モ之ヲ裝着シタル運搬スルモ支障ナカルヘシ</p>
<p>九 突</p>	<p>第二項      制式化シテ      細則ニモ記述スヘシ</p>
<p>第三項      保安上差控フルヲ要ス</p>	<p></p>
<p></p>	<p></p>

争 項	提 案 理 由	兵器履歴規則 ノ調製範圍ノ縮 少緩和ノ甲類 ハ整備シ他ハ一切 廢止スルヲ要ス
該標識法ハ兵器制式圖以 外ニ記載ナキヲ以テ制式圖 ヲ保管セサル部隊ニテハ 據ルヘキ書類ナク且現行 ノ如ク例示ニ止ムル場合ニテ テモ附表第三ノ例示法ハ制 式ト相違スルヲ以テ訂正ス ルヲ要ス	昭和十四年三月陸普第五九 号ニ據ルモノヲ成ルヘク速 カニ詳細所定ノ條項ニ合ス ルヲ要ス	
技 術 本 部 意 見 又 処 置	第四、五項 改正「詳細」ニ於テハ 詳細記述セラルル筈	第一項 研究スヘキモ規則ニヨリ 実施セラレ度
摘 要		

<p>又戦時又ハ事変ニ 関スル事項ハ未 書スル如ク定メテ ルモ本項ハ削除 スルヲ要ス</p> <p>ヲ検査成績ト指傷 ハ同一紙ニ記載 スル如ク定ムルヲ 要ス</p> <p>兵器保存要領</p> <p>兵器保存要領ヲ 改訂シ材料欠乏 セル戦地ニ於ケル保 存法ヲ具体的ニ記 載スルヲ要ス</p>	
<p>現制ノ保存要領ハ平時 ニ於ケル設備完備セル状 況ニ於ケルモノニシテ実戦 的ナラス</p>	
<p>九 兵</p>	
<p>研究スヘシ 実戦ノ経験ニヨル部隊 ノ実施シヌハ実施可能 ナル具体的事項ヲ通 報相成度</p>	<p>第二項 兵籍其ノ他凡テノ書類 ニ於テモ戦時ニ関スル事 項ハ未書シアリ改正ノ 意図ナシ</p> <p>第三項 現規定ヲ可トスル意 見ナリ</p>



其ノ四 兵器取扱保存ニ関スル事項

<p>事</p>	<p>項</p>	<p>動員兵器ヲ平素ヨリ精 通ナルヲ要ス</p>
<p>提案理由</p>	<p>平素ヨリ精神教育ノ徹底ヲ要ス</p>	<p>平素ヨリ精神教育ノ徹底ヲ要ス</p>
<p>提案箇所</p>	<p>歩 三五</p>	<p>一般ニ動員兵器ハ秘密ヲ主トセ ラレ平素ハ全然知ラス戰場ニ 於テ初メテ見受ケルモノアリ後 ソテ之カ保存手入等ハ殆ト知ラ ズ從テ尊重心ニ乏ク密心ニ堪 ハサルモノアリ故ニ一部ノ秘密ヲ主 平素ヨリ之カ研究手入取扱南 シテ周到ナル教育ヲ必要ト思フ</p>
<p>摘要</p>	<p>技術本部意見又ハ如置</p>	<p>承リ置ク 兵器ノ威力發揮ノ為ニ本意 見ノ如クフルトモ必要ナルモ 戰時敵ノ不意ニ乘レル為ニハ 平素之ヲ秘密ニ置クヲトモ 亦必要ナルヘシ</p>
<p>摘要</p>	<p>九二式歩兵砲、九四式三 十七糎砲、九三式輕電 話機ハ動員第一日初 メテ支給ヲ受ケ教育 ノ暇ナク出征ス 從テ十分效果ヲアケ得 サリト云フ</p>	<p>九二式歩兵砲、九四式三 十七糎砲、九三式輕電 話機ハ動員第一日初 メテ支給ヲ受ケ教育 ノ暇ナク出征ス 從テ十分效果ヲアケ得 サリト云フ</p>

<p>事 項</p>	<p>手入、補修材料、補給ヲ要ス</p>	<p>眼鏡類ニ發生セル曇ニ対スル取扱並ニ手入保存ニ就テノ意見 ハ雨天又ハ霧中於テ使用スルトキハ雨覆遮光筒ヲ以テ水滴ノ附著ヲ予防スル</p>
<p>撰 案 理 由</p>	<p>戦闘間ノ手入保存ヲ良好ナラシムル為ニ戰鬥單位部隊奉ニ層ノ材料ノ補給ヲ要ス勿論所在ノ物料ヲ以テ手入ニ任スルモ必要ナル油類ノ補給ハ求ムヘカラス依テ之カ適時補給ヲ必要ト思考ス</p>	<p>到ル教育ヲ必要ト思考ス</p>
<p>撰 案 箇 所</p>	<p>歩 三五</p>	<p>技術本部意見スル処置</p>
<p>技 術 本 部 意 見 ス ル 処 置</p>	<p>上司ニ於テハ根本的ニ研究考慮中ナリ 尚部隊トシテハ手入材料少キ場合如何ニ要部ノ手入ヲ實施スヘキヤニ付平素ヨク研究教育シテオク如クセラレ度</p>	<p>戦闘間ヨリ保存ニ留意セシメル有効ナル処置ト認ム 参考トスヘシ 但シ眼鏡ニ油ヲ附著セシメサルコトニ留意セラレ度 九三式双眼鏡ニ脂油アルハ不可ナリ</p>
<p>摘 要</p>	<p>兵器保存要領及 技術奉行ノ「満蒙ニ於ケル兵器使用上ノ注意」 並ニ水際及炎熱地ニ於ケル兵器使用上ノ注意書ヲ参考トセラレ度</p>	<p>兵器保存要領及 技術奉行ノ「満蒙ニ於ケル兵器使用上ノ注意」 並ニ水際及炎熱地ニ於ケル兵器使用上ノ注意書ヲ参考トセラレ度</p>

<p>2 双眼鏡等ヲ携行スルニ方リテハ防水紙<sup>ゴム</sup>引防水布類ヲ以テ被包スレハ有效ナリ</p> <p>3 雨天又ハ霧中ニ於テ使用シタル後軟木綿ヲ以テカラス<sup>ラ</sup>面其他各部ヲ丁寧ニ拭淨シ水分ヲ除去シタル後空氣ノ流通良キ乾燥セル場所ヲ選ヒ直射日光ヲ避ケテ乾燥スヘシ</p> <p>此際時表等ヲ</p>
<p>歩</p> <p>三五</p>
<p>乾燥器ナキトキ時々清涼ナル時期ヲ選ヒ空氣乾燥スルヲ可トス</p> <p>修理品ハ取扱ニ注意セラレ度</p>

事 項	<p>南キ置クコト          4. 使用セサルトキハ眼          鏡格納箱ニ收容          シ野 戰ニ於テハ密          閉乾燥箱ニ收容          シ格納スヘシ          乾燥箱中ハ乾燥劑          トシテ十分乾燥セ茶          葉ヲ納メスルコトス          時々乾燥清涼ニスル外          空氣ニ觸ルシメ光線ニ          晒ス下ニ必要ナリ          5. 萬一眼鏡言ハレテ生          シタル場合ニハ常ニ其ノ          状態ニ留意スルコト          最も必要ナリ 若シ          急速ニ曇リカ進展ス          ル等保存上ナル考慮          ヲ要スルモハ期ヲ失ハス          之ヲ修理スルコト必要ナリ</p>
提 案 理 由	
提 案 箇 所	<p>步 三五</p>
技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置	<p>第四項 一案ト認ム</p> <p>第五項 確實ナル実施ヲ期ス</p>
摘 要	

<p>実戦ニ於テ実施可能ナルカ如キ入法ヲ教育シ置クニ要ス</p>	<p>戦場ニ於テハ革製品保存ノ為、油ハ動物性油ヲハ何ニテモ可ナル如クスヲ可トス</p>	<p>保存用脂油ニ就テ人スピンドル油、腔中油、白紋油、桐油、種油、綿油、又草脂ノ代リ、豚油</p>
	<p>気候風土内地ト大差ナキ中、北支ニ於テ補給意ノ如クナラサル戦場ニ於テハ規定ノ脂ヲ得ルコト難シ、戦地ニ於テ豚油ノミヲ主トシテ使用セシモ成績ハ良好ナリキ</p>	<p>戦場ニ於テ制式脂油ノ補給意ノ如クナラサルヲ以テ上記ノ如ク現地材料ヲ以テセルモ其ノ成績制式品ニ比シ遜色無キモノト認メタリ</p>
<p>九 兵</p>	<p>工 九</p>	
<p>同意 目下技術ニ於テ一察ヲ起察取纏メ中ナリ</p>	<p>規定ノ脂ニ比シ效カナルヘキモ戦地ニ於ケル應用品トシテ現地物料ヲ使用スルハ極メテ必要ノコトナリ</p>	<p>制式材料ノ得ラレサル場合現地物料ヲ適宜應用スル著意ハ適切ナルモノト認ム 兵器使用上ノ注意其ノ他ニモ更ニ強調スル如ク努ムヘシ</p>

<p>事項</p>	<p>平時用洗矢ハ廢止 シ保心筒ヲ銃口ニ 使用シ糊技洗管 ヲ以テ手入スル程ク 改正スルヲ要ス</p>	<p>小銃機関銃手入用 木綿ハ截断木綿 ヲ交付スルヲ要ス 尚油ノ補給及其 ノ携行法ニ留意 セラレ度</p>
<p>提案理由</p>	<p>腔中手入ノ徹底ヲ図ル ト共ニ木綿ノ節約ヲ 期シ得ル為</p>	<p></p>
<p>提案箇所</p>	<p>九 兵</p>	<p></p>
<p>技術本部意見又処置</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>補給廠ノ業務トシテ 研究スヘシ</p>
<p>摘要</p>	<p></p>	<p></p>

其ノ五 代用品使用ノ結果ニ基ク意見

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見スル処置	摘要
<p>革製兵器代用品 (綿布) 三八歩兵銃屬品 十一年式輕機南銃屬品 品囊、手入具囊 彈藥盒、銃覆等 代用綿布八十 分使用ニ堪ユ</p>	<p>麻布類ニ対シテ遜色ナシ 縫目ノ部分ヨリアツツ ト切斷スルモノ多数アリ 強カヲ要スル部分ニハ 不適當ナリ</p>	<p>歩三五</p>	<p>意見ノ通りナリ</p>	<p>第一項 研究スヘシ</p>

<p>麻製兵糧代用品(綿布)          駄馬具蹄鉄釘          車籠及馬糧車籠          八柄等麻製品          ニ分ルコトナシ</p>	<p>之ヲ以テ司匠控綿          布製ノ緩喉革          袴革等ハ馬体ニ          接スル部分ハ革          材ヲ用フルカ或          膏接面ニ対シ          革材ヲ当テ縫          着シ保護スル          如ク改正スルヲ要ス</p>	
<p>戰場ニ於テ損耗性ヨリ考          察スル時ハ高價ナル麻          ヲリ経済的ニシテ可ナリ</p>	<p>摩擦ノ爲馬具傷ヲ          生スルコト多シ</p>	
<p>歩三五</p>	<p>九兵</p>	
<p>第一第二項          意見ノ通リナリ</p>	<p>第二項          目下研究中ナリ</p>	

五



<p>2 小田魁及小十 字鍍囊ハ代用綿 布ニテ可ナリ</p>	<p>3 本綿製代用水 囊ハ價値ナシ</p>	<p>木材ノ規格変更 品ニ対シテハ其ノ 厚サヲ若干増 加シ得ル如ク制 式ヲ改正スルヲ可トス</p>
	<p>数日ノ使用ヨリ破損ス コホニ製ヲ可トス</p>	<p>軟木 甲乙ニテ制定セ ラレテ通信器具箱 ノ底板等ハ相当ノ抵抗力 ヲ要スルモノナル故厚 サノ増加ヲ圖ルヲ要ス</p>
<p>歩三五</p>	<p>輜 九</p>	<p>九 矢</p>
<p>第三項</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>研究スヘシ</p>

其ノ六 動員編成裝備ニ関スル事項

事項	提案理由	提案算	技術本部意見及処置	摘要
擲彈筒手ニハ小銃ヲ携行セシメサル如ク改ムルヲ要ス	荷重大ニシテ行動ニ便大ナリ	歩七	意見ヲ上司ニ進達スルシ	
擲彈筒手ニハ小銃ニカヘ拳銃若クハ騎銃ヲ携行セシムルヲ可トス	負担量大ニシテ行動ニ支障ヲ生ス	歩三五		
自衛用ハ小銃ハ三八式騎銃ニ改ムルヲ要ス	本兵器ヲ携行スル部隊ノ行動ニ不便ナリ	歩七		
通信手個人裝備兵器中三八式歩兵銃ヲ騎銃ニ改	通信手ハ延線撤収其ノ他部隊ノ一側ヲ通過スル場合等輕快ナル行動	歩三五		

事項	提案理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘要
<p>軽機関銃ニ柳葉ハ必要ニ應シ臨時支給スルヲ可トセシ</p>	<p>今水事変戦闘ニ於テ使用極メテ少ナク軍ニ歩兵ノ負担量増シテ行動ニ影響スルトヨク多シ依テ戦時兵数ニハ一考ヲ要ス</p>	<p>歩三五</p>	<p>当所ニ意見アル所ヲ異申スハシ但シ各銃ニ裝備スルハ々々作戦地ノ状況ニ應シ野戦諸廠ヨリ交付スルル如クハ々々ニ爾シテハ陸軍省ニ於テ研究中ノ筈ナリ</p>	
<p>軽機関銃或ハ擲弾筒ノ部品兵数増加ヲ必要トセシ</p>	<p>戦闘間ニ於ケル部品ノ損耗紛失ニ依リ使用不可能トナリタル事アリ時ニ擲弾筒ニ於テ然リトス</p>	<p>歩三五 砲九</p>	<p>銃ニ懸テハ研究中擲弾筒ハ増加スル如ク手續中ナリ</p>	
<p>九三式五十糎観測鏡ハ中隊三四一五ニ支給セラレ度</p>	<p>既兵数「ノミニテハ敵情視察不足ナリ中、小隊長「宛ヲ獲得セシムルノ要アリ</p>	<p>歩七</p>	<p>意見ヲ上司ニ進達スハシ</p>	

<p>三号昇桂器ヲ步兵 聯隊ニ四師田通 信隊ニハトラ裝備セ ラレ度</p>	<p>歩工兵隊木工常具 及中山鋸ハ約ニ倍 ニ増加裝備セラレ度 又木工修理員特ニ目 立鉦ヲ増加スルヲ 要ス</p>	<p>三十二年式軍刀乙 二十六年式拳銃 ハ夫々九五式軍刀及十 四年式拳銃ト速カ ニ交換ヲ希望ス</p>	<p>戰時工兵聯隊ノ測 量器材ハ停止シ必 要ニ應シ補給廠ヨ リ補給スル如ク定ムル ヲ要ス</p>
		<p>前兩者トモ實戰的價値 ニ乏シ</p>	
<p>九 兵</p>	<p>九 兵</p>	<p>歩 七 騎 九</p>	<p>九 兵</p>
<p>十五年度ヨリ師田通信 隊ニ裝備ス 步兵隊用ハ研究スヘシ</p>	<p>目下研究中ナリ</p>	<p>逐次交換セラレヘキモ整 備ノ關係上急ニハ出未サル ヘシ 但シ意アル所ヲ進達ス</p>	<p>承リ置ク 但シ戰地ニ於テ各種資 材ノ補給ハ滑テラザリシト ノ意見多キヨリ見ルニ必 要ニ際シ適時其ノ運搬具 ト共ニ之ヲ補給ラウクル如キハ 補給廠及部隊共ニ困ルコト ナリ</p>

事 項	提 案 理 由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘 要
<p>兵器手入材料手入用 分ヲ携行スル如ク定 ムルヲ要ス</p>	<p>動員計画ニ示サレル兵器手 入材料ノミテハ不十分ニシテ 殊ニ戦地ノ補給状態ノ実態 ニ鑑ミル時ハ各隊ハ一ヶ月分ノ 手入材料ヲ携行スル如ク 定ムルヲ要ス</p>	<p>七 七</p>	<p>目下根本的ニ研究中ナリ</p>	
<p>兵器手入材料手入用 具等平戦両時ニ於 テ著シキ差違ナカ ラシムル如クスルヲ要 ス</p>	<p>平時ニ於ケル兵器手入ノ実施 ハ材料用具共最善ノ條件 ヲ具備セラレアルハ一ニ命数 保全ノ爲採リテ手入材料モ 戦場ノ実相ニ徴スルニ手入材 料ハ軍ニコスビンドルハクニ シテ時トシテハ全ク手入材料 ヲ欠クト勘シトセス 戦場ニ平時ニ於ケル手入材料ヲ 携行シテ補給スル如ク改正スルヲ 要ス</p>	<p>七 七</p>	<p>平戦両時ヲ通シ同トス ルハ却ツテ適當ナラサルヘシ 兵器定数ニ入ルコトニ就テ ハ研究スルモ実現ハ困難 ナラン 補給ニ関シテハ上司ニ意 見ヲ進達スヘシ</p>	
<p>技術下士官各部下 士官ノ携帶兵器ヲ庫 刀拳銃ニ携帶兵器 区分表ヲ改メテ度</p>	<p>現制ノ裝備ハ実戦ノ上ニ テ</p>	<p>七 七</p>	<p>意見ヲ進達スヘシ 軍刀ノ裝備ニ関シテハ研究 中ナルモ拳銃ハ詮議シ難 シトノ上司ノ意見ナリ</p>	

七七

<p>砲隊鏡増加</p>	<p>替り式経緯儀及地上標定機減少</p>	<p>戦時山砲兵隊ノ重観測器(通信器材ヲ除ク)ハ整備ヲ廢止シ必要ニ應シ隨時補給廠ヨリ補給スル如クスルヲ要ス</p>	<p>通信隊戦用小銃ハ平戦両用トセラレ度</p>
<p>搜索用トシテ山砲ニ利用甚大ナルヲ以テ一箇増加スルヲ可トス</p>	<p>山砲特ニ今次事變ニ於テ之カ利用殆トナシ之重観測器材ヨリ除外シ別ニ必要ニ應シ推行スル如クスルヲ可トス</p>	<p>師團砲兵ノ運動性ヲ輕快ニシ且精密兵器ノ命數ヲ保存スルニアリ</p>	<p>戦時裝備ハ三八式騎銃ナルモ平時ハ三八式歩兵銃ニシテ教育訓練上不便ナリ</p>
	<p>山砲九</p>	<p>九 兵</p>	
<p>考慮シアリ</p>	<p>観測具收容品ヲ必要ノ最少限ニ限定シ容積ノ重量ヲ小ナラシムルコトニ関シテハ研究中(九式ニテハ考慮シアリ)</p>	<p>師團砲兵司令部、観測具ト関連シテ研究スヘシ</p>	<p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ</p>

<p>騎兵聯隊動員定員中ニ技術下士官ノ増加編成ヲ希望ス</p>	<p>小銃ノ手入れハ塗油 紐ヲ裝備シ之ヲ利用 スルヲ要ス</p>	<p>大隊兵器班ノ活動 ヲ大ナラシムルヲ要ス</p>	<p>ロソク燈ヲ増加スル コト</p>	<p>事項</p>
<p>出動部隊ノ兵器業務実 施上必要ナリ</p>	<p>動員裝備トシテ考慮セラ レ度</p>	<p>戦闘間駐軍間ヲ明ハス各 隊ノ兵器業務ノ指導班ニ 手入保存ニ任スルタメ班ヲ増大 シ以テ其ノ活動ノ大ナルヲ要ス</p>	<p>焰ノ動搖セサル程度ノ簡易 ナルモノ 各隊毎ニニ一三莖 ヲ布望ス</p>	<p>提案理由</p>
<p>騎 兵</p>	<p>大 兵</p>	<p>歩 三五</p>	<p>山砲 九</p>	<p>提案箇所</p>
<p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ 尚此種意見ハ兵器部ニ 於テ取纏メ具體的ニ其筋 ヲ申出ラレ度</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>有効ナルモノト認ム</p>	<p>研究スヘシ</p>	<p>技術本部意見又ハ処置</p>
		<p>全般的ニ調査スル コト必要ト認ム</p>		<p>摘要</p>

<p>三十年式乘馬具ヲ 十四年式乘馬具ト 交換セラレ度 又五年式鞍重駄 鞍ヲ十五年式駄鞍 ニ交換セラレ度</p>	<p>鞍重兵隊ニ左 如ク裝備セラレ度 無線電話機ヲ 通信連絡用トシテ 裝備セラレ度</p>
	<p>現在通信連絡手段ハ乘馬及 徒歩傳令ノミナルモ之カ爲支障 ヲ來セシ例今次事ニ於テ少 カラス 戰時人員五千馬匹四千ヲ越 エ而モ師團司令部ト隊 本部ハ時ニヨリ四―五里ノ距離 ニアルコト少カラス 又隊ガニニ單位ニ区分セラ レ命令ノ迅速ナル傳達ノタメ 極メテ必要ナリ</p>
<p>騎 丸</p>	<p>騎 丸</p>
	<p>意見ヲ上同ニ傳達スヘシ</p>



<p>機関銃 輕機関銃 擲彈筒 ナシ得レハ 迫撃砲ヲ裝備セ ラレ度</p>	<p>事 項</p>
<p>航空機ノ發達ハ戰線ニ於ケル 第一線部隊ト輜重タルノ區別 ヲ認メラレサルニ至レルト今次 事変ノ如ク敵カ一ゲリ巨戰 ヲ使用シ絶エテ戰鬪ヲ實施 セサルヘカラサル狀況ニ鑑ミ自 衛上必要ナリ</p>	<p>提 案 理 由</p>
<p>難 カ</p>	<p>提 案 箇 所</p>
<p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ</p>	<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置</p>
<p></p>	<p>摘 要</p>

其ノ七 行政ニ関スル事項

事項	理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘要
<p>狙撃用小銃ヲ平時ヨリ各中隊ニ六「支給セラレ度</p> <p>尚兵器部意見ハ</p> <p>中隊各五</p> <p>歩三五意見ハ</p> <p>中隊各三〇</p>	<p>狙撃教育ハ平時ヨリ徹底セシメオクテ要ス、南京攻陥後本兵器ヲ各中隊ニ「宛増加</p> <p>装備セラレタルモ其ノ数少ナキト</p> <p>十分ナル教育ヲ実施シ得ザリシ</p> <p>為其ノ威カヲ十分發揚シ得</p> <p>ル戦例ナシ、本兵器ニ限ラズ</p> <p>戰場ニ於テ始メテ支給セラ</p> <p>ル、モノハ効果少キカ如シ</p> <p>新制定兵器ハ速カニ教育用ト</p> <p>シテ若干支給スルヲ要ス</p>	<p>歩七</p> <p>九兵</p> <p>歩三五</p>	<p>新兵器ヲ速カニ支給スルトニ就テハ上司ニ意見ヲ進達スヘシ</p>	<p>特ニ他師團ヨリ遅キ如キ感アリ</p>

<p>事 項</p> <p>新制輕機関銃若 千速ヲニ支給スレ度</p>	<p>提 案 理 由</p> <p>次期作戰ノ教育要アリ</p>	<p>提案箇所</p> <p>歩 七 騎 九</p>	<p>技術本部意見又ハ処置</p> <p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ</p>	<p>摘 要</p>
<p>平時歩兵及騎兵聯 隊ニ左記ノ如ク九六 輕機関銃ヲ特別支 給セラレ度 歩兵聯隊 各 三 騎兵聯隊 一</p>	<p>新兵器ノ取扱ヲ速クニ幹部 ニ教育シ置クノ要アルヲ以テ ナリ</p>	<p>九 兵</p>	<p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ 但整備ノ關係上早急ノ実 現ハ困難ナルヘシ</p>	

<p>教育用兵器トシニ当補 充隊ニ貸渡シセラレ リタル兵器ハ引續貸 渡若クハ支給ヲ希望ス 尙左記兵器ハ貸教外</p>	<p>平時山砲兵、工兵輔 重兵聯隊ニ左記如 ノ輕機関銃ヲ特別 支給セラレ度 山砲兵聯隊 三 工 兵聯隊 三 輕重兵聯隊 三</p>
	<p>戰時自衛用トシテ必要ニ付 平時其ノ概念ヲ教育ニ置 クノ要アレハナリ</p>
<p>歩 三五</p>	<p>九 兵</p>
<p>整備ノ關係上希望スル ト難カルヘキモ兵器部ニ手続 セラレ度</p>	<p>意見ヲ上司ニ達達スヘシ 但シ整備ノ關係上早急ノ 實現ハ困難ナルヘシ</p>

<p>九七式曳火榴彈九七式 信管特別支給セラシム</p>	<p>九六式輕機関銃 四 八九式重擲彈筒 六 十一年式輕機関銃 六</p>	<p>器定数外ニ増加支給ヲ希シマス 左記</p>	<p>事 項</p>
<p>從前當隊ニ支給シタル十一年式</p>			<p>提 案 理 由</p>
	<p>歩 三五</p>		<p>提 案 箇 所</p>
<p>意見ヲ上司ニ進達スヘシ</p>		<p>整備ノ關係上希望ニハ添 ヒ難カルヘキモ兵器部ニテ手統 セラレ度</p>	<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置</p>
			<p>摘 要</p>

<p>平時師団教育用トシテ 九八式裝藥磁石ヲ左如 ク補給セラレ度 各歩兵隊 一三〇 騎兵隊 三〇 山砲兵隊 三〇</p>	
<p>新制定近接戦闘器材ニ親交 シ要領ヲ會得シ置クニ在リ從來 ノ經驗鑑ミ戰場殊ニ敵前ニ於テ 新制定兵器多數補給セラレ 取扱未熟ノタメ不覺ヲ採リ例 外カラス</p>	<p>曳火信管ハ今度ノ事変ノ實驗 ニ徴スルニ余リニ霽火時間長キ為 戰果ノ時期ヲ失スルヲ比較的多 シ 尚戰場心理ノ機微ナル作用 ヨリ考メ察スルトキ四秒乃至五秒 ヲ以テ霽火スル九七式ヲ教育訓練 ノ為是非必要トス 目下支那軍ノ使用セル手榴彈(四 秒系)ヲ函獲シ之ヲ逆用スル場合 ヲ考慮セハ殊ニ然リトス故ニ從 未使用ノモノヲ一時中止シ特別ニ 支給セラレ度</p>
<p>九 兵</p>	<p>歩 三五</p>
<p>上司ニ進達スシ</p>	<p>意見ヲ上司ニ進達スシ</p>

事	項	提	案	理由	理由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘要
<p>工兵隊 九〇 輜重隊 一〇 歩、騎兵隊ハ各中隊一〇 工兵隊ハ〇、山砲、輜重 隊ハ各五宛割トス</p> <p>平時歩兵聯隊器材定 数中</p> <p>ノ、九四式五号無線機ノ 歌戲用器具箱「六」ヲ制 定補給セラレ度</p> <p>2、通信器具箱ハ現在 「二」ナルモ「一六」ヲ改正 スルヲ要ス</p> <p>3、歩兵通信隊平時用 器材中馱馬具ハ「三」ノ ナルモ「二」ニ定数ヲ増加セラ</p>	<p>器材及馱馬数ニ比シ馱馬具缺 数アリテ教育上支障アリ</p>	<p>九 兵</p>	<p>第一項研究スヘシ</p> <p>第二、三項上同ニ進達 スヘシ</p>			<p>九 兵 上同ニ進達スヘシ</p>		

<p>平時師団輕裝甲車 訓練所ニ支給セラレシ 輕裝甲車二台ハ第三 種程度ナリ故ニ次同ニ 支給セラルハ三台ハ少 クモ第二種品ヲ支給セ ラレ度</p>	<p>レ度 左ノ器材ヲ速ク充 足セラレ度 1. 通信器具箱 駝 載用 駝鞍「三」 2. 無線機 3. 講堂用教育資材 モテ得限リ兵器ニテ 充足</p>
<p>訓練上支障アレハナリ</p>	<p>通信隊教育ニ必要ナリ</p>
<p>九</p>	<p>歩</p>
<p>兵 意見ヲ上司ニ傳達スヘシ</p>	<p>七 意見ヲ上司ニ傳達スヘシ</p>



事 項	提 案 理 由	提案箇所	技術本部意見又ハ処置	摘 要
騎兵聯隊、擲彈筒、 馱鞍ヲ支給セシメ度 新制職工具ヲ速カニ 支給セシメ度	制式馱鞍制定セシメ現 品支給セラレス教育上支障 アリ アリ	九 兵 九	意見ヲ上司ニ進達スヘシ	
九四式三十七発砲彈 薬箱ヲ至急支給セ ラレ度	現在一箱モナク教育上支障 アルヲ以テナリ	歩 七 三五	意見ヲ上司ニ進達スヘシ	
各部隊対シ其ノ保 管スル主要兵器ノ制 式図ヲ備附スル如ク スルヲ可トス 例ヘハ山砲兵聯隊ニ對 シ九四式山砲ノ制式圖 ヲ備附スルカ如ク	兵器ノ加修其ノ他教育上ニ於 テ現在ノ狀況ニ於テハ不便ナリ	九 兵 兵 同意シ難シ		

<p>化学戦資材中消函 ヲ一時ニ多量支給スル ハ適當ナラス</p>	<p>保存上不便ナリ</p>	<p>歩</p>	<p>七 意図ヲ関係箇所ニ連絡スヘシ</p>	
<p>通信隊ニ平時用兵器 細目名称表ヲ交付セラ レ度</p>		<p>九</p>	<p>兵 意見ヲ上司ニ傳達スヘシ</p>	
<p>各種兵器ノ定價表 至急送附セラレ度</p>	<p>應急復旧計画ニ必要アレハ ナリ</p>	<p>九</p>	<p>兵 造兵廠ニテ処置ス</p>	<p>大阪工廠出張員ニテ 処置ス</p>
<p>銃制ニカ、ル兵器修理 材料ノ配給ヲ迅速ナラ シメラレ度 例ハ本廠ニ注文セシ 皮革、麻布、麻電 話機修理ノ各「ゴード」 等ノ如シ</p>	<p>應急復旧ヲ迅速ナラシメシコト爲</p>	<p>九</p>	<p>兵 関係箇所ニ連絡スヘシ</p>	<p>復旧部隊ニ対スル材料 ノ支給ニ関シテ迅速ニ 処置スルヲ要ス</p>

事 項	提 案 理 由	提 案 箇 所	技 術 本 部 意 見 又 ハ 処 置	摘 要
<p>陸軍技術本部調製 ノ兵器図ハ兵器教育 ニ至大ノ效果アリ之カ 利用ニ努メツ、アルモ更 ニ彈藥ノ各種信管ニ 對スル兵器図ニ調製シ 支給セラル、ヲ希望ス</p>	<p>騎兵隊ニ於ケル兵器修 理等業務実施上現在ノ 規定ニテハ不足ナリ</p>	<p>歩 三五 目下調製中ナリ</p>	<p>踏 九 意見ヲ上司ニ傳達スヘシ</p>	<p>工務兵ノ定員ヲ 左ノ通增加セラ ル度 騎工兵 中 隊 各ニ以上 騎工兵 目 各三以上</p>

其ノハ 其ノ他ニ関スル意見

<p>狙撃銃眼鏡八回 著シアルカ或ハ更 ニ研究ノ要アリ</p>	<p>三八式歩兵銃員 章ヲ側方ニ附著ス ルヲ可トス</p>	<p>事 項</p>
<p>狙撃銃ヲ使用セル結果 ハ非常ニ良好ナルモ眼 鏡ハ形大ニシテ且小銃ト 別箇ニ携行セザルヘカ</p>	<p>長時間ノ行軍ニ方リ兵員 ノ疲勞其ノ極ニ達スルモ 兵ハ敵地内ノ落伍ヲ忌ミ 部隊ニ統行セントスルハ心 ヨリ装具糧秣等ヲ逐次 放棄シ部隊ニ尾行スル 等ノ例少カラス斯ル如 場合ニ於テ員章ヲ側方 ニ附著シ携行法ヲ簡單 ナラシメタレハ行軍力ニ 相當ノ影響アルヘシ</p>	<p>提 案 理 由</p>
<p></p>	<p>歩三五</p>	<p>提 案 箇 所</p>
<p>携行間ニ離脱シ戦 闘ヲ予期スル場合以後 ハ裝着スルコト差支ナシ</p>	<p>承 リ 置 ク 九 九 式 ノ 短 銃 身 ノ 場 合 考 慮 ス ヘ シ</p>	<p>技 術 本 部 意 見 又 ハ 知 置</p>
<p>我國ノモノハ列國 中最小ナリ</p>	<p></p>	<p>摘 要</p>

<p>事 項</p>	<p>「アセケレン」燈ハ 其ノ裝備不必要ナリ</p>	<p>同光通信機ノ廢止</p>	<p>「スピンドル」油其 他ノ脂油ニ就テ運 搬法ヲ研究セラレ度</p>
<p>提 案 理 由</p>	<p>懐中電燈ニテモ同ニ合ヒ 耳焰ノ光輝強ク射撃目標 トナリ易シ</p>	<p>山砲ニ於テハ利用價值少 ク且携行ニ勞力大ナリ</p>	<p>運搬間破損シテ漏出スル コト多シ ハ「ガロン」罐ハ不可ナリ</p>
<p>提案箇所</p>	<p>歩三五</p>	<p>九 兵 山砲 九</p>	<p>九 兵</p>
<p>技術本部意見又ハ処置</p>	<p>砲兵觀測器材關係ハ廢 止ス其ノ他ニ就テハ研究ス 但電信隊ニハ必要兵器ナ リト信ス（保線ノタメ）</p>	<p>概テ同意ナリ 砲兵隊ノ裝備用トシ テ要否ニ就キ研究ス ヘシ</p>	<p>「ドラム」罐ニツキ研究 中ナリ</p>
<p>摘 要</p>	<p>師團通信隊砲兵隊</p>	<p>ニ於テ使用 シタル經驗ニ基クト</p>	

<p>左ノ如キ土主霰ヲ制 定装備セラレ度</p> <p>機関銃 銃側掩護 機関銃 弾薬箱保護</p> <p>機関銃屬面保護 所屬某等背部外傷 防止 休養時汚染敷物用</p>	<p>射撃ニ当リテラ詰ム掩体ニ 利用ス</p> <p>武漢攻略戦ニテ某小隊ニ 本案モノヲ使用セシメ 頗ル好結果ヲ得ケタリ</p> <p>又彈薬等ノ背部擦過創 防止トモナル</p> <p>本案利用ニヨリ完全ニ 防止シ得タル实例多シ</p> <p>尚之カ緩衝材トモナリ</p> <p>彈薬箱等ノ破損ヲ大イ ニ防止シ得タリ</p>	<p>歩一丸</p>	<p>研究ス</p>	
--	--	------------	------------	--